

武蔵野観音霊場三十三札所 巡礼略記

発願：令和7年3月 結願：令和7年6月

本邦の巡礼路は、四国八十八ヶ所遍路、並びに西国、坂東、秩父の各観音霊場三十三札所を巡る道が主な巡礼路（本地巡礼路）となっている。これらを巡礼する習慣は、前二者は奈良・平安時代から始まり、後二者は少し遅れて鎌倉時代から始まった。

しかし、これらの巡礼は道中が長い上に、遠方から巡拝する巡礼者には路銀も相当の負担になったので、往時の巡礼が可能な人達は皇族・貴族などの貴顕、藩主や豪族などの上流階級に限られていた。斯様な余裕が無い庶民には左様な時間と暇と金を掛けて本地の巡礼はできない相談であるから、本地仏の写し本尊を郷土に招来勧請してミニ遍路巡礼路やミニ観音霊場巡礼路を設えてこれらのミニ巡礼を行うことで、庶民でも本地の巡礼と同様の功德を得られるように工夫されたミニ巡礼路が全国各地に勧請された訳である。

因みに、上記の中でも坂東観音霊場や秩父観音霊場は、本邦最古唯一の本地観音霊場三十三札所である西国観音霊場の東国版として開設された写し観音霊場であった。世は移り変わって近・現代になってからは、四国八十八箇所遍路にしろ観音霊場三十三札所巡礼にしろ本地の巡礼もポピュラーになってはいるが、やはり遠方には行き難い人々が多いのでそれぞれの身近の場所に「〇〇八十八箇所遍路」や「△△観音霊場」などの写し巡礼路が作られていったのである。

これらの写し巡礼路には大小多種多様な巡礼路が作られていて、大は都道府県単位のものから小は市町村単位、集落単位のものまであり、一番小さいものは寺院の参道脇や境内の狭い一隅に並べられた箱庭巡礼路まで枚挙に暇がない。

巡礼の距離、一巡に要する時間は上記のクラシックな本地巡礼路では、長いもの順に坂東観音霊場三十三札所 1,300km・65日間、四国八十八箇所遍路 1,200km・60日間、西国観音霊場三十三箇所札所 1,000km・50日間、秩父観音霊場三十四箇所札所 100km・5日間が相場であろう。

これらに対して、本地から勧請された写し巡礼路は、巡礼期間1週間程度のものから短いものでは寺院の境内に設えられた一巡僅か30秒間という写し遍路や観音霊場も多い。

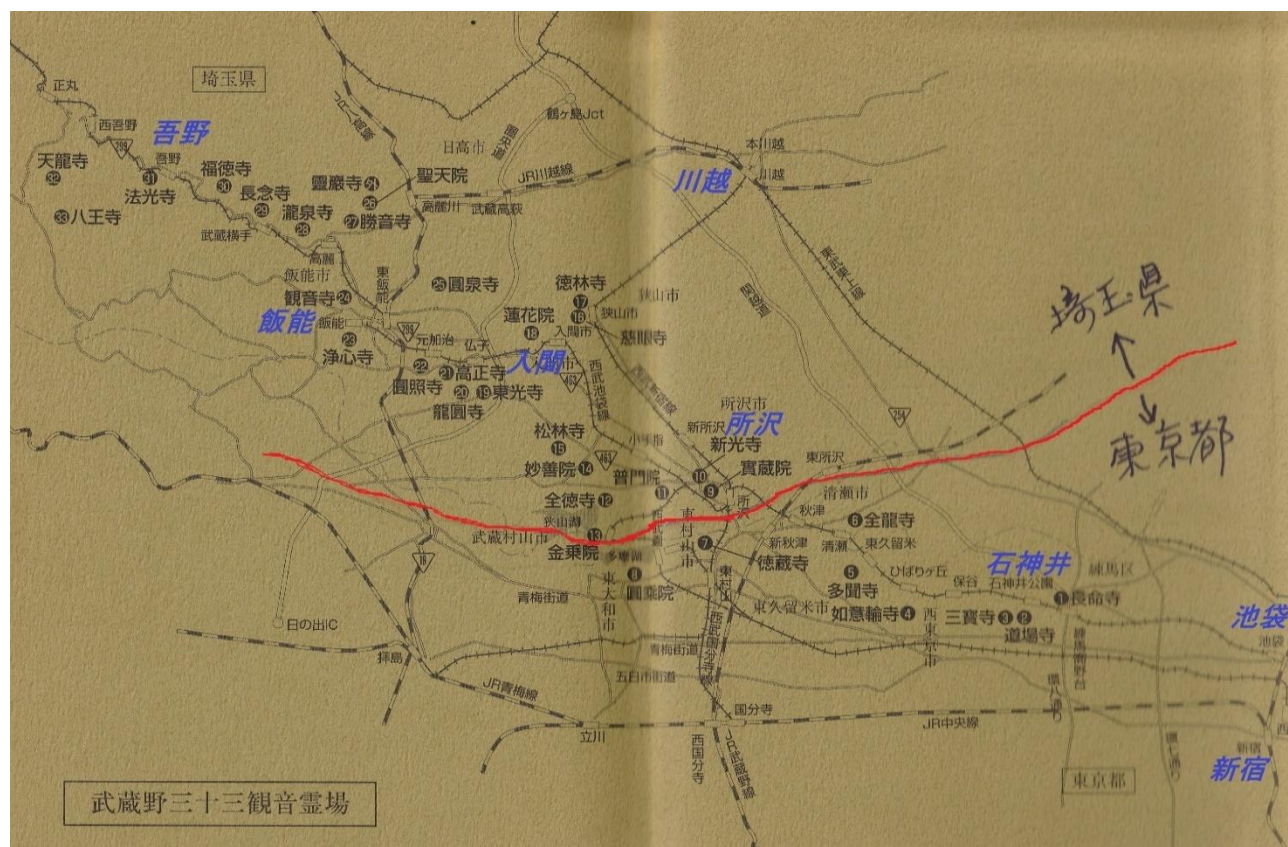
小生は、会社を定年退職してから20年以上が経ったが、未だ足腰が立っている頃にはクライミングや海外登山に精を出していたが、心身共に段々と老朽化してきて登山が困難になってきた頃から、同じ「お山」に登るのでも上記の遍路や観音霊場巡りの方の「霊場聖山詣り」に宗旨替えをして、山伏や行者の真似事を始めてから10年以上が経過し、その間に上記の四国遍路や西国、坂東、秩父の各観音霊場の巡礼を2巡行い、また、昨年には邪宗門の異教徒ではあるがスペインのカミーノ巡礼を1ヶ月間ほど巡ったりして気が付いたら合計で1万キロメートルに近い距離を歩いた計算になっていた。

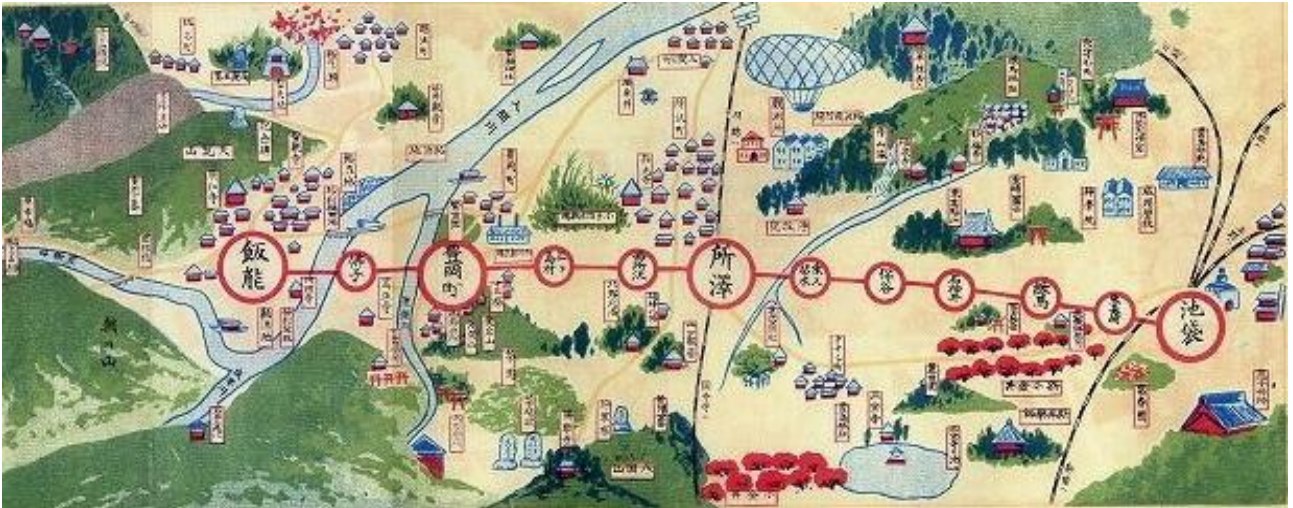
信仰心も懺悔の心も宗教への関心も無い小生が巡礼路を歩いているのは、専ら物見遊山や夜遍路（即ち門前町の紅灯の赤提灯）が目的であるが、それでも一旦始めた巡礼は“これにて結願”という訳にもいかず、ズルズルと足を引き摺って比較的近場にあるマイナーでローカルな写し勧請霊場巡礼路を細々と歩き続けているという次第である。本稿はそのような巡礼路の一つである関東は武蔵野地域の三十三所観音の巡礼略記である。

「武蔵野観音霊場三十三札所」は、昭和 15 年（1940 年）に某郷土史家によって発願・選定された新しい霊場で、武蔵野の面影が未だ色濃く残っている西武鉄道池袋線の沿線に分布している寺院から成り立っている。都県別に言えば、東京都内に 8 寺院、埼玉県内に 25 寺院と番外寺が 1 寺ある。都心に近い石神井辺りから始まり、所沢市を中心とする緑の武蔵野丘陵を経て、深山を思わせるような飯能市の山中に分布している。同じローカルなご当地写し観音霊場ではあっても、例えば鎌倉や江戸の観音霊場札所寺院などが参詣者で賑わっているのに比べて、武蔵野観音霊場の札所には参詣者の姿も少なく境内も静かであった。参拝客が少ないためか、本堂はじめ境内の堂宇も固く閉扉されている寺院も多く、“おらが寺”という雰囲気ではない寺院も多かった。寺の法会や檀家衆の法要などの時のみ本堂を開くのであろう。従って、静謐な参詣を望む人には適しているが、やはり本尊や諸仏にお目に掛かれないのは些か寂しいことではあった。また、御朱印書置きの札所もかなりあった（本項の御朱印に参拝日付の記載が無いものは書置きの御朱印である）

【武蔵野観音霊場三十三札所 一覧】（寺名に付した数字は札所番付）

1. 長命寺	練馬区	10. 新光寺	所沢市	19. 東光寺	入間市	28. 龍泉寺	日高市
2. 道場寺	練馬区	11. 普門院	所沢市	20. 龍圓寺	入間市	29. 長念寺	飯能市
3. 三寶寺	練馬区	12. 全徳寺	所沢市	21. 高正寺	入間市	30. 福德寺	飯能市
4. 如意輪寺	西東京	13. 金乗院	所沢市	22. 圓照寺	入間市	31. 法光寺	飯能市
5. 多聞寺	東久留米	14. 妙善院	所沢市	23. 浄心寺	入間市	32. 天龍寺	飯能市
6. 全龍寺	清瀬市	15. 松林寺	所沢市	24. 観音寺	飯能市	33. 八王寺	飯能市
7. 徳蔵寺	東村山市	16. 慈眼寺	狭山市	25. 圓泉寺	飯能市	番外霊巖寺	日高市
8. 圓乗院	東大和市	17. 徳林寺	狭山市	26. 聖天院	日高市		
9. 實蔵院	所沢市	18. 蓮花院	入間市	27. 勝音寺	日高市		





(武蔵野観音霊場が分布している西武鉄道の前身「武蔵野鉄道」沿線案内図 1920 年頃 西武7-カイ7)

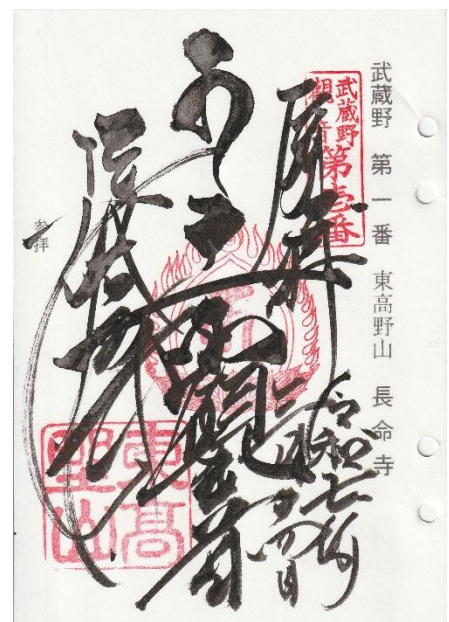
卅 第1番 東高野山 長命寺 (東京都練馬区、真言宗豊山派)

本邦の霊場巡礼の札所は概ね札所番付の順番に並んでいる場合が一般的であるが、番付の順番が飛び出したり引っ込んだり逆戻りしている巡礼路も結構ある。幸いなことに、この武蔵野観音霊場の札所番付は西武鉄道・池袋線に沿って始発駅の池袋駅から吾野駅方面への駅順に沿って順番に並んでいるので、最寄り駅まで電車利用で廻る分には非常に効率的に廻れる。

さて、まずは発願の取り付き第一段として、練馬区にある第1番～第3番札所、及び西東京市にある第4番札所の4札所を巡ってきた。予定では、更に東久留米市、清瀬市まで足を延ばして第5番及び第6番札所迄巡拝すれば纏まった区切りがつくのであったが、途中でウロウロと道に迷ったりして足がストライキを起こしたので、武蔵野観音霊場巡礼発願の初日はこの4寺で打ち止めとなった。まずは第一番「長命寺」から。



(前後左右に四天王が祀られている長命寺・南大門)



この第一番札所「長命寺」は西武鉄道池袋線・練馬高野台駅」から歩いて10分程の近場にあった。道路に面した南大門には前後左右の4室に大きな四天王が鎮座している豪壮な山門であった。一般的には山門には左右一対の仁王像が寺院の守護神として祀られているが、この山門には仏教世界を守る四天王（持國天、広目天、増長天、多聞天）が祀られていた。山門に四天王を祀っている寺院も無いことはないが、四天王4体が全て揃って祀られている寺院は珍しい。

（長命寺の広目天⇒）



山門を潜るとすぐ右側には十三仏の石像が祀られていた。十三仏とは、故人の三十三回忌までの功德を守り極楽浄土に導いてくれる13種類の仏、菩薩の事であり、煩瑣になるが名を挙げれば、不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿閼如来、大日如来、虚空蔵菩薩である。

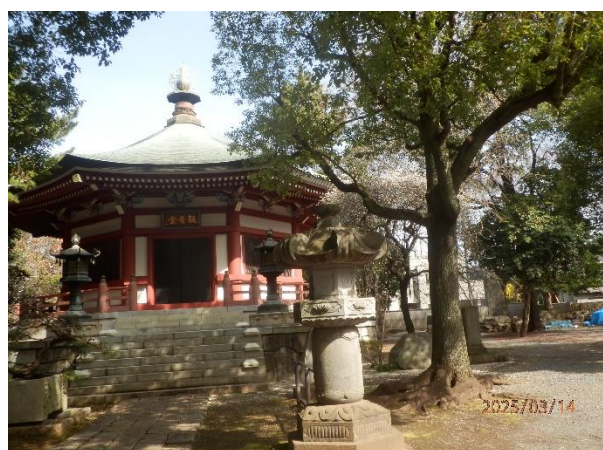
（十三仏。左奥が本堂⇒）



南大門を潜った直ぐ先には、不動明王を祀った大伽藍の本堂があり、その左側には朱塗りが映える八角観音堂や大師堂などの伽藍があったが、全て固く閉扉されていて安置されている仏像は拝観できなかった。寺に参詣するということは、その寺に祀られている諸仏像に間近で拝顔して仏縁を結ぶことであるから、扉が固く閉じられた堂宇に向かって拝んでも何か気が抜けている感じが否めず、従ってこの第一番札所も味気ない参詣となった。



（豪壮な本堂）



（朱塗りが鮮やかな観音堂）

しかしながら、本堂の左手側の境内は奥の院になっていて、狭いながらも本山・高野山奥の院の伽藍配置を真似て作られていて、高野山に比べればほんの箱庭程度にしか過ぎないが、道端に祀られた多くの石仏や古木の森にはそれでも高野山奥の院の幽邃を感じさせ

るものがあつた。その奥の院入口に建てられていた古色豊かな碑柱の刻字は素人の小生の目にも相当の祐筆の筆と思われた。伸びやかな筆で「東かうや山■くのいん入口」。

そういえば、頂いた御朱印の筆跡も達筆であつた。



(奥の院と入口碑 右は拡大)

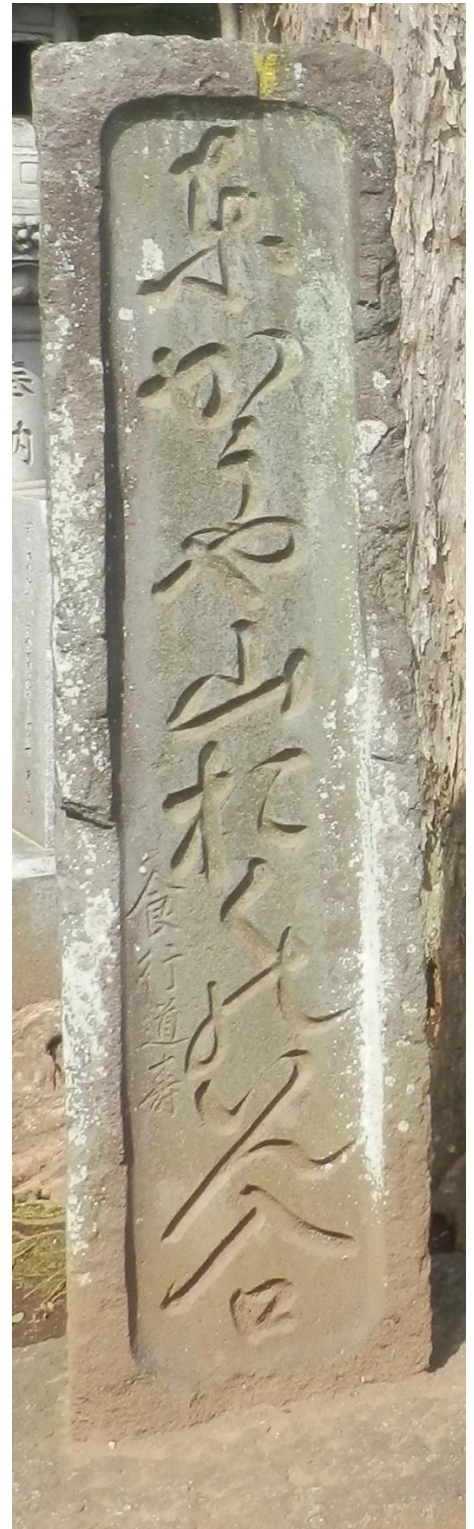
この寺は大きな寺院ではあつたが、参詣者は誰も居ず、寺男の方一人が落ち葉を掃き清めておられるだけの静謐で幽邃な境内であつた。

宗派：真言宗豊山派

札所本尊：十一面観世音菩薩

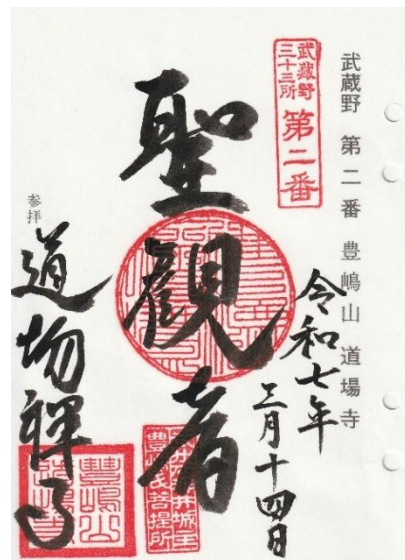
交通：西武池袋線「練馬高野台駅」より、徒歩 10 分

参詣日：令和 7 年 3 月 1 4 日



卅 第2番 豊嶋山 道場寺 (東京都練馬区、曹洞宗)

この札所は、武蔵野の湧水豊かな石神井池や三宝寺池を中心として水と緑に囲まれた都立石神井公園の近くにあった。この地は旧石器時代から人々の生活が営まれ、近世には江戸近郊農村として発展し、また、風光明媚な場所として江戸の文人墨客が好んで訪れた歴史と文化の地でもあったそうな。今は郊外の住宅地になっているが、古き時代の武蔵野丘陵の高台の面影を感じさせた。



この寺の境内には参詣者は誰も居らず、ひっそりとしたものだった。縁起によれば、禅寺であるこの寺は曹洞宗の由緒に則り本山・永平寺と同様の七堂伽藍が建立されていて、本尊・釈迦如来を祀る本堂（兼・法堂）は「釈尊の教え」を、都内の寺院では珍しい三重ノ塔に祀られているスリランカ渡来の仏舎利は「釈尊の姿」を、鐘楼で毎朝撞かれる鐘の音は「釈尊の声」を夫々再現していると伝えられているが、残念ながら本堂も三重ノ塔も扉が固く閉じられていてお釈迦様の仏縁に触れることが出来なかった。

しかし、鐘楼の下の方寒桜と河津桜の大木は今は満開で、暫し花見と洒落込んだ。



(都内の寺には珍しい三重ノ塔)



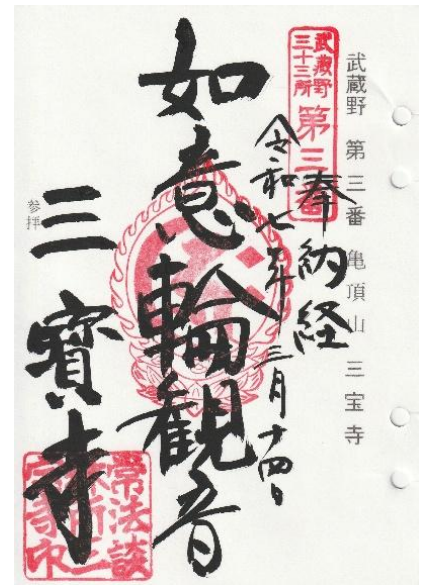
(鐘楼の下の方満開の河津桜。左側に方寒桜)

宗派：曹洞宗 札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武池袋線「石神井公園駅」より徒歩 20 分

参詣日：令和 7 年 3 月 1 4 日

卅 第3番 亀頂山 三寶寺 (東京都練馬区、真言宗)

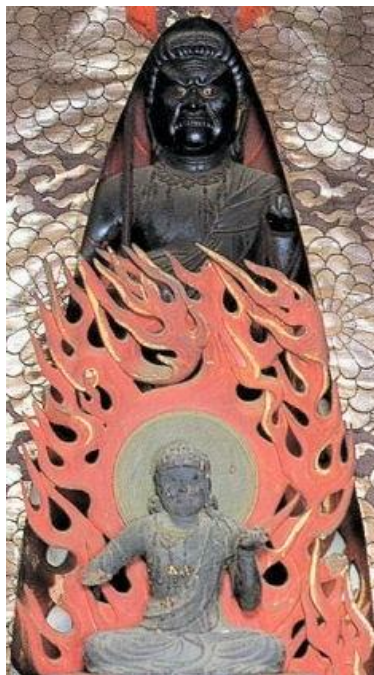


(勝海舟邸の門を移築した長屋門。扁額は「海舟書屋」)

この第三番札所・三寶寺は前札所の第二番・道成寺のすぐ隣に並んであった。上に掲げた門の方が先にあったので、ここから入山したが、これは謂わば通用門で、本来の山門は少し先にあったが、この長屋門も由緒正しそうな門であった。旧勝海舟邸にあった屋敷門を移築した長屋門で、扁額には達筆で「海舟書屋」と刻まれていた。

さて、ここ数ヶ月間、江戸観音霊場 33 札所などを巡って来たが、その札所の本堂や観音堂は閉扉されている寺が多かったが、本日は久しぶりに本堂が開放されている寺に詣でることが出来て、祀られた諸仏が自由に直に拝顔できたのが誠に結構であった。本尊の不動明王（下左）、孔雀座に乗っているちょっと珍しい紅顔梨阿弥陀仏（下右）等を間近に拝むことができた。

(許可を得て撮影)



本堂の左手側には広くて明るい新しい境内が造成されていて、観音堂や根本大塔、平和観音像が建立されていた。観音堂は閉扉されていたが小さな覗き窓からこの札所の本尊である伝聖徳太子作の如意輪観世音菩薩を拝めた。

根本大塔は高さ 17 メートルの均整のとれた大きな宝形の美塔が青空に映えていた。平和観音像は開創 600 年記念事業として建立されたそうで、身の丈 10 メートルの石造十一面観音像で、これも天を衝いていた。



(伝聖徳太子作 札所本尊 如意輪観世音菩薩)



(平和観音 十一面観音像)

この札所も他に参詣者は居ず、静謐な境内であったが、伽藍が明るい雰囲気に含まれていたもので、ベンチに座ってのんびりと春風に浸っていると、何かほんわかとした気分になってきて命の洗濯にもなったような気になったものだった。

宗派：真言宗智山派

札所本尊：如意輪観世音菩薩

交通：西武池袋線「石神井公園駅」より、徒歩 10 分

参詣日：令和 7 年 3 月 1 4 日



(↓均整のとれた根本大塔)

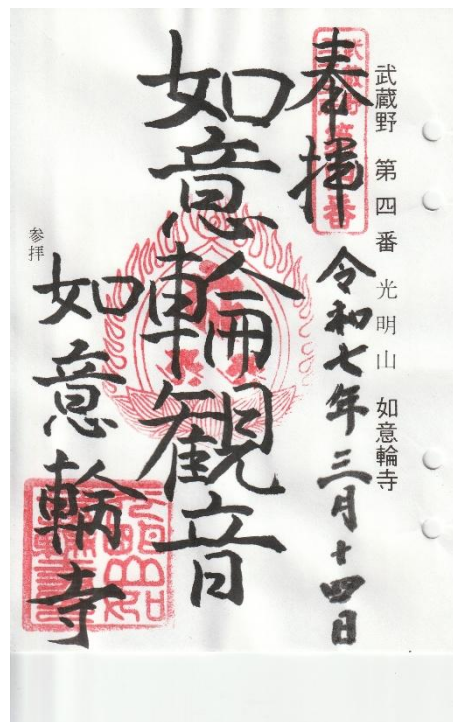
卅 第4番 光明山 如意輪寺 (東京都西東京市、真言宗)

案内書に依れば、この札所は西東京市・保谷庁舎から徒歩6分と記載されていたが、何の何の、小生の足では30分以上掛かっても到着できなかった。小生の足が遅いのも事実であるが、案内書の所要時間の記述がミスプリと思われる。おまけに、本日は3月下旬ではあったが、気温が夏日並に上昇、未だ暑さに慣れていない身体は汗だくになってダウン寸前、途中にあったスーパーで水を買ってがぶ飲みした。

観音霊場巡礼路には普通は案内標識や寺院の表示板などという物は無いし、道路を歩いている人も居ないので道順を聞くこともできないのが通例である。マ、そのようにしてストライキを始めた我が脚を何とか誤魔化しつつ、やっとこの寺に辿り着いた時には山門の脇に座り込んでしまって立ち上がれなかった。。

この札所には人影が全く無く、御朱印を頂くにも境内の裏にある寺務所に辿り着けず、本堂の脇にあったインターフォンでやっと寺務所への道順を聞いて御朱印を頂戴したような塩梅であった。

本堂も観音堂も固く扉を閉ざしていて、おまけに境内にも見るべき堂宇や仏像は何も無く、取り付くシマも全く無かった。よって、書くべきことも無し。



宗派：真言宗智山派

札所本尊：如意輪観世音菩薩

交通：西武池袋線「保谷駅」より三鷹駅/吉祥寺駅/田無駅行バス

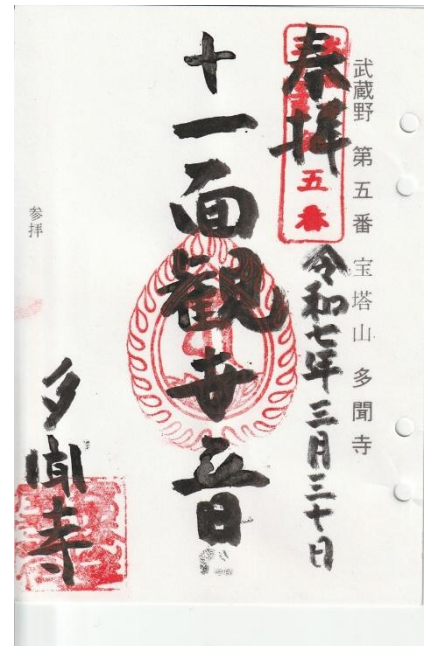
「保谷庁舎バス停」下車徒歩 25 分

参詣日：令和7年3月14日

卅 第5番 寶塔山 多聞寺 (東京都東久留米市、真言宗)



(折から枝垂れ桜が満開の本堂)



池袋から西武池袋線で20分ほどの東久留米駅からトコトコと歩いて行った。この寺のご詠歌に「ひばり鳴く武蔵野恋し南沢 多聞の知恵と聞けや松風」とあるからには、武蔵野の畑の上空では雲雀が囀り、武蔵野丘陵から吹き下ろした松籟が聞こえて来るといような武蔵野の野原や田園の春の情景を期待して歩いたが、畑などは全く消え果ててビル街や新興住宅団地が続く市街地になっていてガッカリした（小生は道に迷わないように大通りを歩いたが、落合川沿いの遊歩道を歩けば武蔵野湧水の清流や緑地が見えるそう）。しかし、この寺の境内の枝垂れ桜の古木は今を盛りと咲き誇っていて、良い花見ができた。古木の山門は古色蒼然としていて、柱上部の蓑股、獅子鼻、海老虹梁などの立派な彫刻が眼を惹いた。



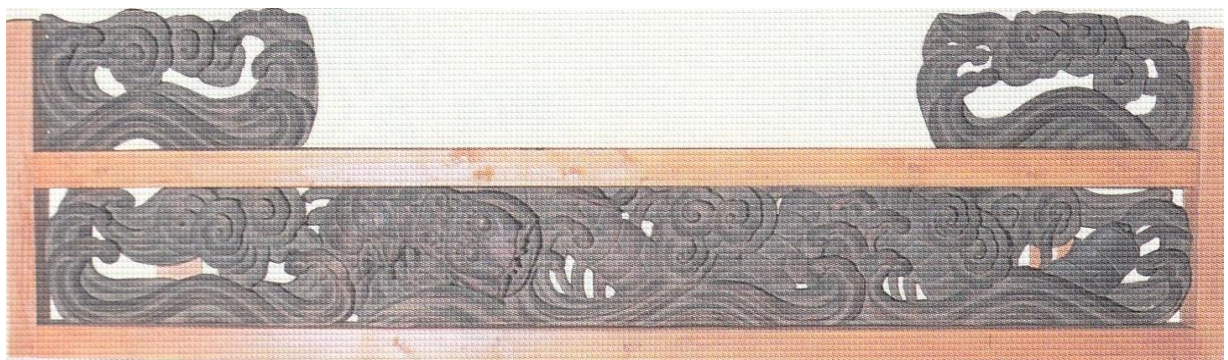
(柱上部の彫り物が立派な山門)

本堂は、本日は幾つかの檀家の法要が営まれていたので、ご住職に頼んでその合間の僅かな時間を縫って内陣を拝観させて頂いた。本堂の須弥壇には、寺本尊の毘沙門天（＝多聞天）、大日如来、不動明王、その奥に札所本尊の十一面観音、弘法大師像などが安置されており、また、天満宮も本堂の中に祀られていて神仏習合の伝統が今も守られている珍しい伽藍であった。

ご住職に依れば、寺本尊の毘沙門天は閉扉された厨子の中に安置されている絶対秘仏で、ご住職自身も未だかつて一度も拝顔したことが無いとのことだった。また、かつては須弥壇の香狭間には他の寺には余り例の無い百足（毘沙門天のお使い）が彫刻されていたが、今は撤去されて代わりに龍の彫刻に替わっているとのことだった。珍しい百足の彫刻を観たかったが残念であった。



（枝垂れ桜などの桜花が満開の境内）



（今は撤去されていて観ることが出来ない毘沙門天のお使いの百足の彫刻。同寺案内冊子より）

宗派：真言宗智山派

札所本尊：十一面観世音菩薩

交通：西武池袋線「東久留米駅」より徒歩 20 分

参詣日：令和 7 年 3 月 30 日

卅 第6番 安松山 全龍寺 (曹洞宗、東京都清瀬市)



この札所は東京都内でも埼玉県境に近い北西部の清瀬市にある。東京都内でもこの辺り迄来ればかなり郊外の武蔵野丘陵の里山山麓に入って来たような気がする。

この寺には山門が無いので参道のすぐ先に本堂があり、参道の脇には大きな石灯籠が設えられていて、豪快に刻まれた獅子や龍の彫刻は素晴らしいものだった（右下写真）。また、本堂前の仁王像もなかなか味があった。加えて、砂で覆われた境内も清々しく掃除されていて塵一つ、落ち葉一枚も落ちていなかった。また、処々に腰掛けが置かれていてのんびりと初春の薫風に浸ることができた。

札所本尊は一葉観音菩薩である。一葉観音菩薩と言うのは三十三観世音菩薩の一つであるが、この観世音菩薩を本尊としている寺院は珍しい。一葉という名前は蓮の葉一枚（蓮花の花弁一枚？）の上に乗る如意輪観音と同様な右膝を立てた輪王座という座法でこの世に垂迹されるからである。

この一葉観音は、曹洞宗の開祖・道元禅師が留学先の宋からの帰途に海上で暴風雨に遭遇した際に禅師が船上に黙座して一心に観音経を読誦すると一葉観音が海上に浮かび、風雨が収まって無事帰国できたので、禅師はこの観音の姿を刻んで念持仏として崇拝したという縁起がある。

よって、この一葉観音は旅の安全、殊に航海の安全や水難除けの仏として信仰を集めた。因みに、天然痘撲滅に尽くした野口英世も洋行の際にこの観音像を持仏とし



て持参したという（寺のパフレット掲載の案内記事による）。

この寺の一葉観音は秘仏となっていて本堂の須弥壇の厨子の中に御隠れになっているので拝顔できないが、本堂の入り口に模刻像が立っていた（下右写真）。



（一葉観世音菩薩 某文献より引用）



（本堂入口にある一葉観音の模刻像）

また、壁に沿って表情豊かな十六羅漢像が祀られていた。十六羅漢像の中には自分の父親に似た羅漢が必ず居られるそうだからと探して見たが、拙僧の父親のような田舎のドン百姓の顔相の羅漢は見当たらなかった。イヤハヤ・・・。



（十六羅漢像）

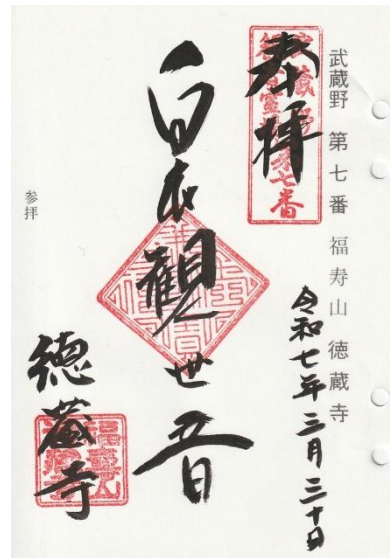
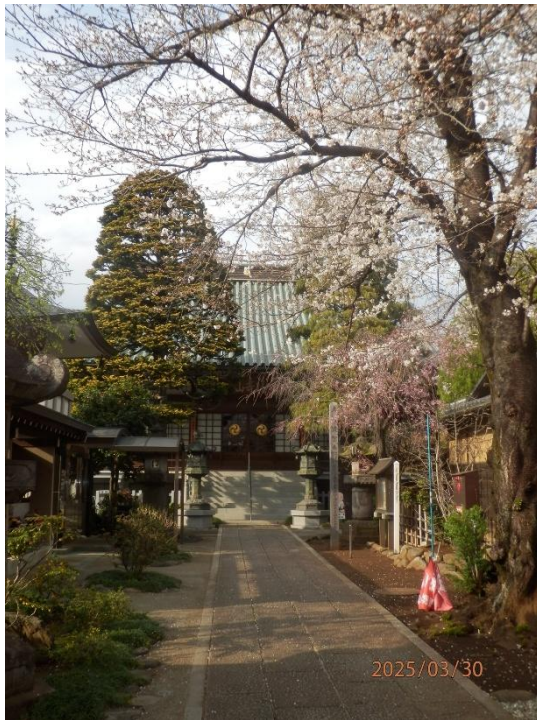
宗派：曹洞宗

札所本尊：一葉観世音菩薩

交通：西武池袋線「清瀬駅」より徒歩 20 分

参詣日：令和 7 年 3 月 30 日

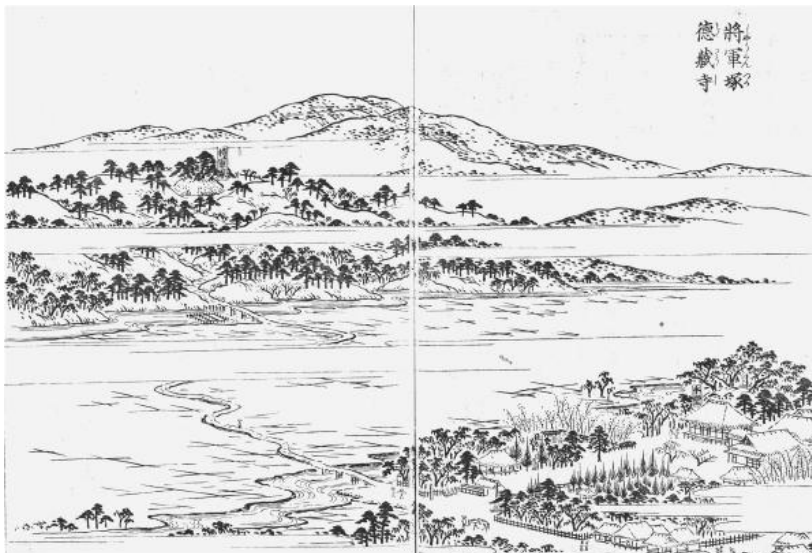
第7番 福寿山 徳蔵寺 (臨濟宗、東京都東村山市)



(↑同寺白衣観音 同寺 HP)

この札所は、関東地方に特有の供養塔である「板碑」が多く祀られている寺として知られていて、板碑保存館という立派な展示館も開設されていたが、その方面に知識の無い小生には猫に小判であったので板碑の拝観は割愛させて頂いて早々に退散した。本堂も閉扉されていて、本尊の白衣観世音菩薩も拝観できなかった。白衣観音というのは白衣を着た観音で、高崎観音や大谷観音等の露天の石造大観音では珍しくないが、内陣に安置されている小さな木造仏像は珍しいような。

江戸時代には、この辺りは武蔵野の一面で狭山丘陵が広がっていたそうだが、今はその面影は見られず住宅などの市街地が広がっていた（下は「江戸名所図会」による往時の情景）。



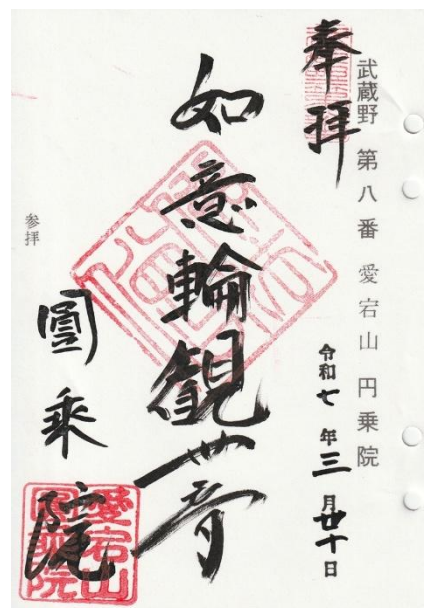
宗派：臨濟宗

交通：西武池袋線「東村山駅」
より徒歩 20 分

札所本尊：白衣観世音菩薩

参詣日：令和 7 年 3 月 30 日

第8番 愛宕山 圓乗院 (東京都東大和市)



本日の巡拝は第5番・多聞寺から始めて第8番の本寺・圓乗院までの狭山丘陵東端麓にある4札所を廻る予定で出掛けたのであるが、往路の JR 湘南新宿ラインの電車が踏切事故で2時間ほど遅れ、本日最後のこの札所に辿り着いた時は閉門ギリギリで、境内の満開の桜花が薄闇の中に薄っすらと溶け込んでいたのも、これまた一興であった。納経所が閉まる前に納経して御朱印を頂き、手入れが行き届いた境内を拝観させて頂いた。

この札所の本尊は二臂の如意輪観音である。如意輪観音像は普通は六臂で表現されるので二臂の如意輪観音像は珍しい。一般的に二臂の半伽思惟像は弥勒菩薩として祀られることが多い（例えば、有名な中宮寺の弥勒菩薩像など）。半伽思惟像がそうであるように、この寺の如意輪観音菩薩像も上半身は裸体、下半身にだけ裳を付けていて右手は頬に当てて思惟に耽る優美な細身の優しい姿は女性の美しさを顕して余りあるそうだが、本堂は閉じられていて小さな格子窓からは暗い内陣は拝観できず、誠に残念至極であった。代わりに、どこぞの資料に載っていた当寺の如意輪観音像を右上に出しておくので、その優美で艶めかしいお姿を拝観されたい。



また、本堂の横の斜面には千体地蔵が所狭しと並んでいて、地蔵様は平生から身近な仏様ではあるが、これだけ沢山の（千体の）地蔵菩薩に見詰められると何か異界に紛れ込んだような異様な気持ちになった。日頃から脛に瑕を持つ悪逞な輩だからであろうか。

(次頁に写真あり)



帰途はバスで西武新宿線・東村山駅に戻った。駅前の広場に例の日本中の茶の間を沸かせたがコロナで急逝した「バカ殿」コメディアン志村けんの銅像が建っていた。TV 番組「8 時だヨ、全員集合」の東村山音頭で、東村山市という田舎を全国津々浦々に知らせめた功績により市役所の肝煎で建立されたものだそう。民間が建立した有名人の銅像ならゴマンとあるが、たかがお笑い芸人の銅像が公的に建てられているのは珍しいのではなかろうか。誠に慶賀の至りである。市関係者の役人らしからぬ粋な計らいに敬意を表したい。



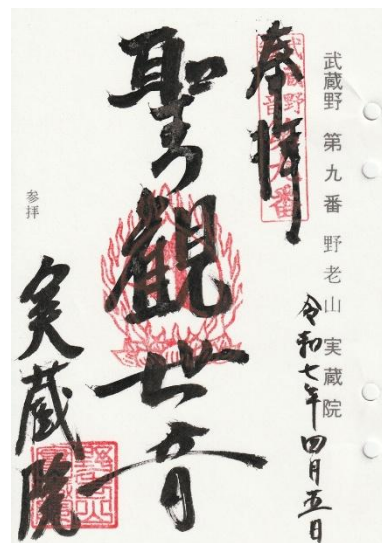
宗派：真言宗

札所本尊：如意輪観世音菩薩

交通：西武新宿線「東村山駅」より立川駅行バス「狭山三丁目」下車 5 分

参詣日：令和 7 年 3 月 30 日

第9番 野老山 實蔵院 (埼玉県所沢市)



武蔵野 33 観音霊場は、前札所「第8番・圓乗院」で都内を抜けてこの第9番「實蔵院」から結願寺の第33番「八王寺」までは全て埼玉県内にある。同じ埼玉県内でもこの實蔵院はじめ計7札所は所沢市内に分布している。所沢市のこの付近は武蔵野台地の中央部に位置していて、旧石器時代から人が住み着き、中世には鎌倉街道の要衝となり、新田義貞軍と北条高時軍の激戦が交わされた小手指ヶ原もこの辺りにある。

さて、所沢は日本の飛行機開発製造と飛行場発祥の地で、そのことを記念した「所沢航空記念公園」や「所沢航空発祥記念館」が市役所の隣にあり、この第9番・實蔵院にも近いので、行き掛けの駄賃に立ち寄ってみた。航空杵公園では、折から4月に入った最初の日曜日でもあった為か家族連れの花見客で賑わっていたが、所謂“桜の名所”ではなく郊外の地元住民の“おらが公園”のようで子供を乳母車に乗せた若い夫婦が満開の桜の下で弁当を広げてのんびりと花見を楽しんでいた。



(桜満開の所沢航空記念公園)

航空発祥記念館には、飛行機黎明期の古い飛行機が沢山展示されていて、面白かった。航空公園駅前広場には、我が国唯一の国産旅客機であった YS-11 の実物が展示され、また、西武電車・航空公園駅のホームには YS-11 の壁画が壁一杯に描かれていて流石の演出であった。小生が会社に勤務していた頃は地方へのドサ廻り出張が多く、飛行機も田舎空港便の YS-11 に搭乗することが多かったので、YS-11 は懐かしい飛行機であった。



(航空公園駅前広場に展示されている YS-11 型機)



(航空公園駅のホーム一杯に描かれている YS-11 の壁画)

さて、話が横道に逸れた。第9番札所「實藏院」に戻ろう。この寺は町の中にあるが、境内は緑に覆われていて落ち着いた古刹の風格があった。山門の入り口では古色豊かな六地藏尊の石仏が迎えてくれて、寺院拝観の気持ちが高まってきた。

しかしながら、本堂は固く閉扉されていて、本尊の大日如来や札所本尊の聖観世音菩薩は拝顔できなかった。

その代わり、本堂の前には聖観音の石像が祀られていて、お前立としてこの観音像を拝めということかも知れない。



(山門前に祀られていた六地藏尊)



(本堂前の聖観世音菩薩石像)

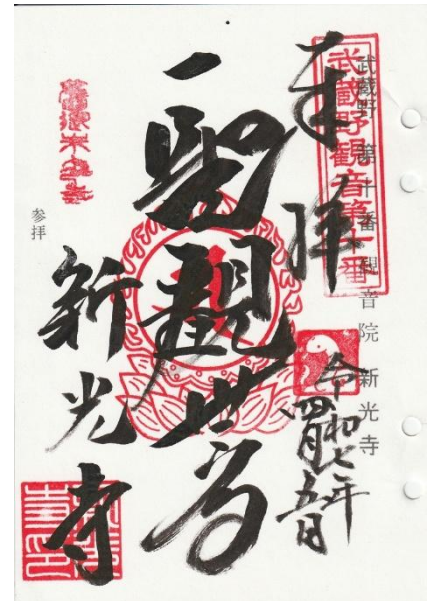
宗派：真言宗

札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武池袋線「西所沢駅」より徒歩 20 分

参詣日：令和 7 年 4 月 5 日

第10番 遊石山 新光寺 (埼玉県所沢市)



前の第8番札所「實蔵院」から歩いて5分の近場にあった。境内は枝垂れ桜やソメイヨシノが満開で、夜間は桜のライトアップが点灯されるそう。ご近所の方々が夜桜見物と洒落込むのであろうか。



札所本尊が祀られている本堂は閉扉されていて札所本尊の伝行基菩薩作の聖観世音菩薩像は拝観できなかったが、境内に露天で祀られていた石造の大きな聖観世音菩薩には拝顔できた。優しそうな表情をしておられた。

境内の奥に夢殿のような美しい朱塗りの八角円堂があった。これが観音堂であった。60年程に奈良法隆寺の夢殿を模して建立されたそうだ。扉がほんの少し開いたが、須弥壇は暗くてよく見えなかった。



(法隆寺の夢殿を模した美しい八角観音堂)

(←露天の聖観音像)

宗派：真言宗

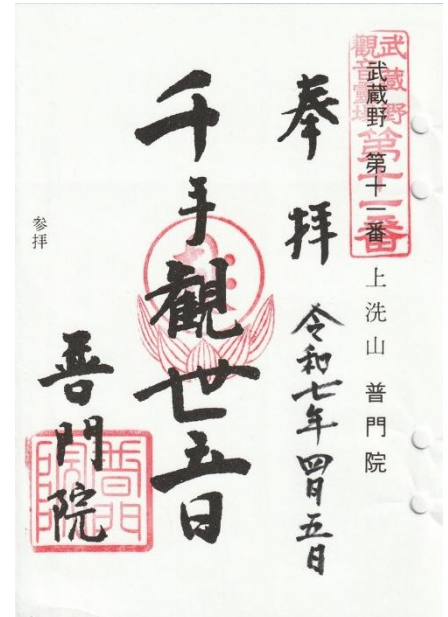
札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武池袋線「西所沢駅」より徒歩 20 分。

前札所第 9 番・實蔵院からは徒歩 5 分。

参詣日：令和 7 年 4 月 5 日

第11番 上洗山 普門院 (埼玉県所沢市)



この札所へは前札所の第10番「真光寺」から歩いて行っていたが、途中の国道と県道の五差路で道を間違えて4km程全く違う方向へ行ってしまう、その道をまた引き返したので往復で2、3時間程無駄歩きをしてしまったので、目標のこの寺に着いた時には足腰が草臥れ切って参拝する元気も無くなっていた。

また、本堂も固く閉められていて須弥壇も覗けず。

よって、境内に祀られていた露天の千手観音像を拝んで退出した。



宗派：真言宗

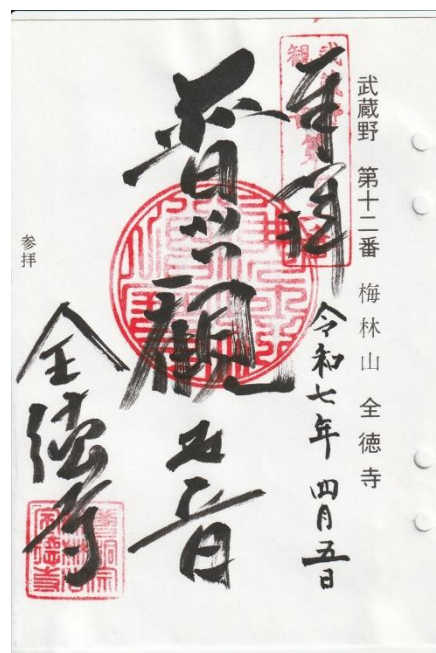
札所本尊：千手聖観世音菩薩

交通：西武池袋線「西所沢駅」より徒歩20分。

前札所・新光寺からは徒歩30分。

参詣日：令和7年4月5日

第12番 梅林山 全徳寺 (埼玉県所沢市)



武蔵野丘陵もこの辺りまで来ると丘陵地形が顕著になってきて、雑木林や狭山茶の茶畑が見られるようになってくる。小手指ヶ原古戦場近くの県道 179 号の内手というバス停でバスを降りて道順を探してウロウロしていたら丁度通りかかった散策中のおネエ様がスマホで寺の位置を探してくれて連れて行ってくれた。大助かりだった。

山中や鄙の地に行けば、寺などというものは凡そその村には村民の菩提寺一寺しか無いのが普通で、道を聞いても大抵はすぐに分かるが、町中では道を歩いている人に聞いてもほぼ 9 割は要領を得ない。知らないと返事されるのはまだ良い方で、如何にも詳しく場所を教示された挙句そこに辿り着いてみると全く違った寺であったというケースも多い。

加えて、武蔵野観音霊場札所などという比較的近年に開かれた巡礼札所には巡礼古道などというものも無く、また巡礼路の路傍に案内標識などというモノも全くないし、巡礼案内パンフレットなどにも札所名が記載されているだけの程度であるから、札所に辿り着くだけで往生するが多い。マ、斯様な行道も功德を積む為の巡礼の修行であろうから自分の耳で聴き自分の足で探し歩くしかないという本然の姿でもあろう。。

さて、この寺の本堂も固く閉まっていて、本堂に安置されていると言う珍しい普悲観世音菩薩には拝顔できなかった。この観音様は観音の本質である平等普遍の大慈悲心を強調した観音だそうで、岩座の上に立ち、両手を袖の中に入れて全身を白衣で被ったお姿で垂迹されるそう。

(普悲観音像の一例。他所の例⇒)



この寺は閉門が午後4時となっていて、閉門ギリギリに参ったので御朱印を頂くのが精一杯で境内や伽藍を参観する時間的余裕も無かった。

山門入口に誰かが奉納した十六羅漢像が祀られていた。どの羅漢の顔も立派な風貌であったから、小生の如き馬鹿面の顔は見つからなかった。この駄文を読んで下さった方々は知性と教養に富んだ方々であろうから、きっとご自分に似た羅漢の顔が見つかるのではなかろうか。



(↑ 山門入口に奉納された十六羅漢像 ↓ 参道沿いに祀られた石仏群、奥が本堂)



宗派：曹洞宗

札所本尊：普悲観世音菩薩

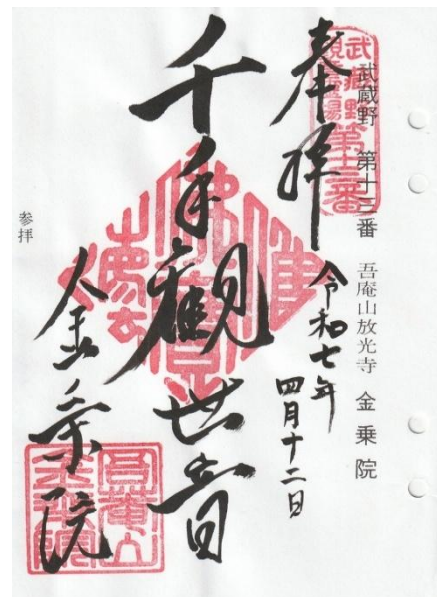
交通：西武池袋線「小手指駅」よりバス「高峰バス停」下車

参詣日：令和7年4月5日

第13番 吾庵山 金乗院 (埼玉県所沢市)



(シンプルではあるが格式が高そうなベンガラ塗の仁王門)



この札所は、埼玉県所沢市の西武球場駅から歩いて10分くらいの高台にあった。かなり的大刹であるらしく、門前には綺麗に設えられている弁天池があり弁天様が祀られていた。仁王門を潜って急な石段の参道を登ると広い境内に出て、高台の境内には多くの伽藍が建っていた。所沢の中心街からはかなり離れているせいか、大刹にも関わらず参詣者は二、三人くらいしか居らず、ゆっくりと境内の逍遥を楽しむことができた。境内の諸所に置かれているベンチに座って桜の花吹雪の薫風に吹かれていると心が洗われるようだった。

本尊は1200年前の伝行基菩薩作・千手観音菩薩で往古から山口観音として庶民の信仰を集めてきたそうであるが、今は本堂の奥深く祀られていて、33年に一度しか開帳されない秘仏だそうな。本堂は閉扉されていて僅かな覗き窓から覗いて見たが、須弥壇の様子は暗くてよく見えなかった。秘仏本尊の替わりに常時拝める観音像が必要ということから、900年ほど前の藤原時代に本尊と同じ姿形を写した千手観音像が刻まれて本堂の裏側に祀られた。世に言う「裏観音」(下右写真)であるが、こちらにも小さな覗き窓からしか覗けず、

中は暗闇でサッパリ拝顔できなかった。本堂は格式ありそうな大きな伽藍(左写真)であったが、閉扉されていて内陣が拝めないのはやはり寂しいもので不満が残った。



台地斜面頂上の奥の院には朱色が映える堂々とした五重塔が建っていたが扉は閉じられていて、中に祀られている千體観音は拝観できなかった。この五重塔の地下には地下窟（仏國窟）が掘られていて西国三十三観音札所と四国遍路八十八箇所の写し本尊が祀られていた。四国遍路の方は新しく祀られたミニ写し本尊像であったが、西国三十三観音霊場の写し本尊 33 體には古色蒼然とした風格が感じられた。



（仏國窟入口）

（←五重塔）

その他、境内には七福神堂も建てられていて、武蔵野七福神の一つ布袋尊が祀られているが、その伽藍は中国伝来の楼閣を思わせる洒落た伽藍であった。屋根の上にも種々の呪像が祀られている珍しい堂宇であった。布袋尊が中国伝来の像であるからであろうか。

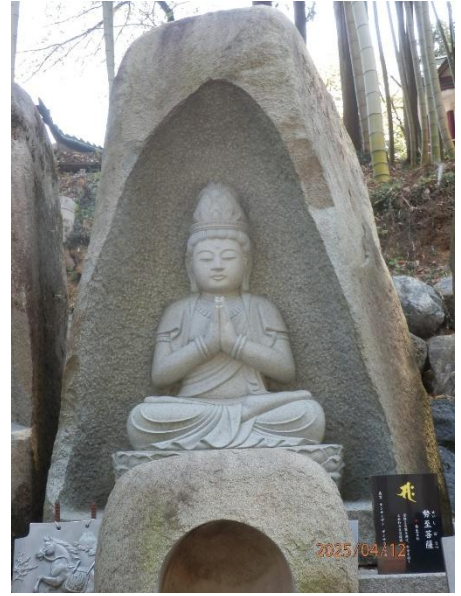


（七福神堂。柵上を這っている龍神に留意。左側は開山堂、右側は水子供養地蔵尊）

境内には最近奉供された八体尊守護仏が建っていた。八体尊守護仏というのは、生まれ年毎の守り本尊で、例えば小生は午年の生まれであるから、八体尊は勢至菩薩である。勢至菩薩は知恵の光で衆生の迷いを除く仏様であるから、小生のお役にピッタリではないか。



(八体尊守護仏)



(勢至菩薩)



(境内の斜面に祀られた沢山の水子供養地藏尊)

宗派：真言宗

札所本尊：千手観世音菩薩

交通：西武狭山線「西武球場前駅」より徒歩 10 分

参詣日：令和 7 年 4 月 12 日

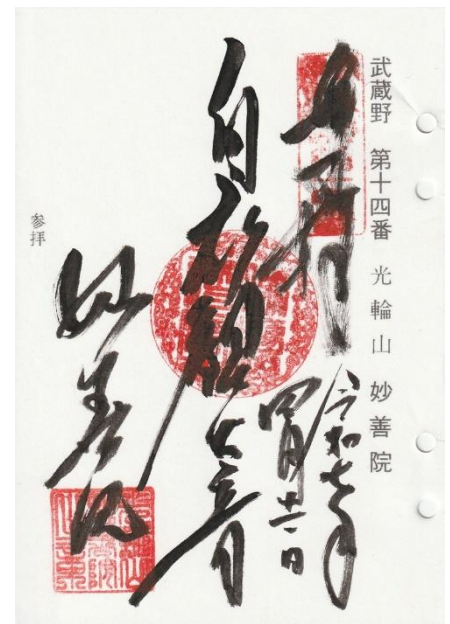
(次頁に江戸名所図会「山口観音」を転載)

江戸名所図会「山口観音」（金乗院）

武蔵野丘陵台地の斜面に造られた境内や伽藍の配置の様子が良く分かる。境内の佇まいは現在も変わっていない。



第14番 光輪山 妙善院 (埼玉県所沢市)



楼門造りのどっしりした山門を潜ると良く整えられた広い境内に出た。本堂は閉じられていて本尊の白衣観世音菩薩*（優しい顔でありながら、姿態も着衣もどことなく艶めかしい観音様）は拝観できなかったが、境内は桜が満開であった。本日は初夏を思わせる陽気で、御朱印を頂いた時に住職から貰った狭山茶のペットボトルが実に美味しかった。



(楼門造りの山門)



(桜花満開の境内)

参拝を終えたら丁度昼飯の時刻になったので、この寺の近くにあった和風料亭風の食事処で昼飯とした。古民家風の座敷で応対も料理もなかなかによろしかった。値段も手頃であった。「ゆまりか」という。

若者数人で共同して開店・営業しているのだそうで、気持ちの良い落ち着いた店だった。機会があれば是非寄って見られたし。



(※補註 ご参考) 白衣観世音菩薩

白衣観世音菩薩像は、通例は露天に祀られた巨大な観音像（例えば高崎観音や大谷観音など）や掛軸に描かれた仏画が一般的で、厨子の中に安置されるような小さな仏像は珍しいと思われる。着衣が白色のベール状の薄布で透けているように見えるそうだから、艶めかしい仏様だと思われるが、マ、左様な想像を逞しくしている小生の如き輩はきっと地獄に落とされるに違いない。



(高崎観音)



(掛軸に描かれた白衣観音)



(チョット艶めかしい!)

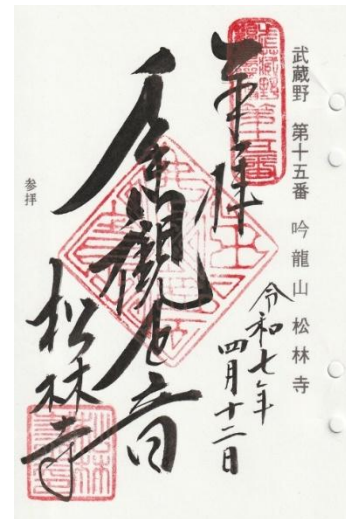
宗派：曹洞宗

札所本尊：白衣観世音菩薩

交通：西武狭山線「小手指駅」から早稲田大学行バス「大日堂バス停」下車徒歩 20 分

参詣日：令和 7 年 4 月 12 日

第15番 吟龍山 松林寺 (埼玉県所沢市)



(山門から松の植え込みの中を一直線に伸びる参道。仁王像も大きい)

前札所の妙善院から、武蔵野丘陵の風情が残っている台地の中の畑の一本道を歩いて行った。沿道には狭山茶の茶畑が一面に広がり、また、畑や空き地なども残っていてこの辺まで来ると往時の武蔵野の面影も斯くやと思わせられた。平地と丘陵地が混淆していて如何にも武蔵野という気がした。

(新芽が綺麗に摘まれた茶畑⇒)



前札所から1時間ほど歩いてやっこの札所に辿り着いたが、上り下りの無い平坦な道であったにも関わらず我が足はストライキを起こしそうになっていて、諸伽藍をじっくりと廻って拝観という塩梅にはいかなかった。本堂も閉扉されていて小さな覗き窓からは須弥壇の様子もよく見えなかった。境内には玄奘三蔵法師像や一葉観音像が祀られていた。



(玄奘三蔵法師像。左は薬師六角堂)



(蓮華に座っている一葉観音像)

帰りは西武池袋線の狭山ヶ丘駅まで街中の歩道の無い道路を車に脅かされながら 1 時間程歩いたが、この札所だけで往復 2 時間以上も歩いた勘定になって駅に辿り着いた時には喉がカラカラになっていたので安酒場で喉に流し込んだビールで生き返った。

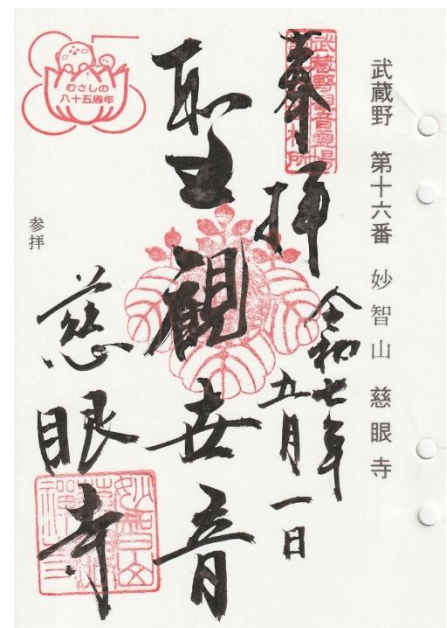
宗派：曹洞宗

札所本尊：千手観世音菩薩

交通：西武池袋線「狭山ヶ丘駅」から徒歩 1 時間

参詣日：令和 7 年 4 月 12 日

第 16 番 妙智山 慈眼寺 (埼玉県狭山市)



武蔵野観音霊場 33 札所もこの 16 番札所辺りで中盤戦となる。大別すれば、33 札所の前半部分は西武鉄道池袋線沿線の南東部分（池袋寄り）に分布し、後半部分は北東部分（飯能から秩父寄り）に位置している。沿線の風景も市街地から段々と田園、山麓、山中へと入って行く。

さて、武蔵野前半の札所では殆どの札所で本堂や観音堂は閉扉されていて拝観できなかったが、この寺も本堂はコロナ禍以降閉扉されていて、ガラス戸越しに見る内陣はガラス戸の反射で須弥壇に祀られている仏像もよく見えなかった。マ、他所からの参詣客が殆ど居ない田舎のお寺は住職夫婦だけでやっている小刹が多く、そのような寺では仏像の盗難や伽藍の防備のために観音縁日や檀家の法要などの折以外の日には本堂や観音堂を閉じているらしいが、これはこれでやむを得ないことでもあろう。

もともと、納経所で頂いた寺報「妙智通信」に拠れば本尊の聖観世音菩薩像は開創六百年の悠久の時を経て腐植と破損が進み、現在は京都の仏師の手で数百年ぶりの修復中の為に不在だそうで、いずれにしても拝顔はできなかったのであるが・・・。

しかしながら、簡素な山門の欄間には見事な彫刻が施されていた。欄間には龍が飛び、天女が舞っていた。また、木鼻には阿吽の獅子が彫られていた。山門の両脇には仁王像が睨みを効かせていた。



(簡素な山門ではあったが・・・)



(欄間に彫られた龍と天女)



(木鼻に彫られた阿吽の獅子)

本堂の前にはローソクや線香の煙と煤で真っ黒に変色した小さな石仏がひっそりと祀られていた。この辺りはかつては入間川畔に宿場町が栄えていて遊郭もあったそうで、その遊女達が篤く信仰したのがこの地藏様であったそう。通称、イボ取り地藏とか黒焦げ地藏とか呼ばれているらしい。

恵まれない遊女達の心痛を一心に引き受けていた身代わり地藏であったのであろう。単純な彫りながら、遊女たちの祈りが籠っているように感じられた。



(黒焦げ地藏尊)

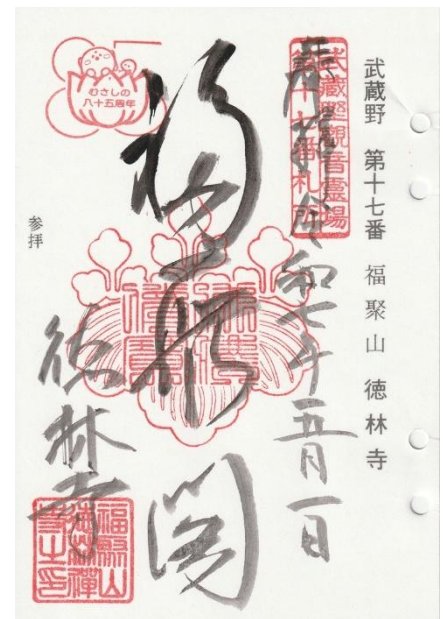
宗派：曹洞宗

札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武新宿線「狭山市駅」から徒歩 10 分

参詣日：令和 7 年 5 月 1 日

第17番 福聚山 徳林寺 (埼玉県狭山市)



御詠歌に曰く「唐國のいわれも古きみほとけは かんばせ句う憂い含みて」。
この札所の本尊は唐からの渡来仏で、新田義貞が鎌倉攻めの際に当地に本陣を置いた際にこの寺に本尊として寄進したと言われている。本尊は高台にある色鮮やかな観音堂に安置されていて御詠歌どうりの憂いを含んだ顔であった。その周りには千体観音が祀られていた。観音堂の後の一段と高い所には大きな石仏の観音像が建てられていた。



(観音堂と石仏観音。観音堂の屋根に乗っている如く)
(本尊・聖観世音菩薩、撮影許可⇒)

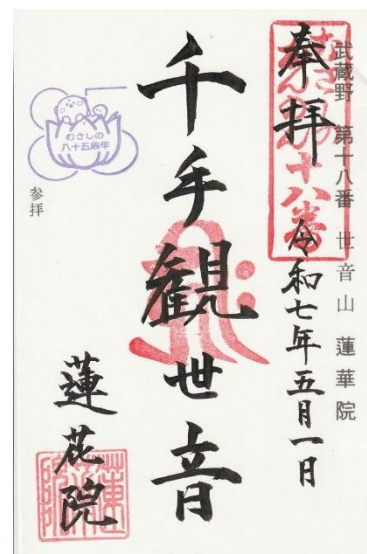
宗派：曹洞宗

札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武新宿線「狭山市駅」から徒歩 10 分、前札所・慈眼寺からも徒歩 10 分

参詣日：令和 7 年 5 月 1 日

第18番 世音山 蓮花院 (埼玉県入間市)

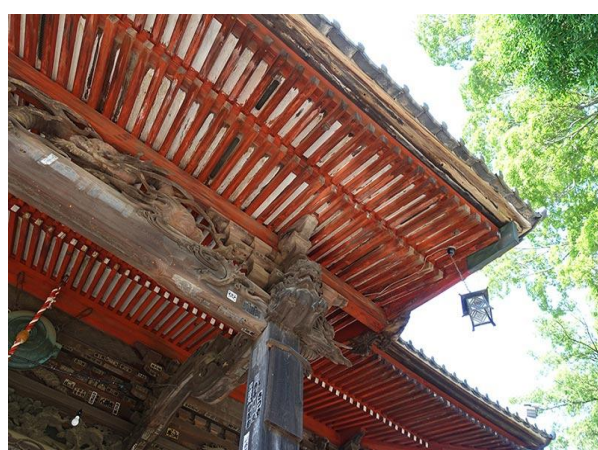


住宅団地の街中あるにしては、境内は緑の木立や草本に囲まれ、池泉庭園も設えられている古刹の雰囲気漂う大刹であった。参道の突き当りに建つ観音堂に祀られている本尊の千手観音は年に1回しか開帳されない室町時代の秘仏で拝観できなかったが、観音堂の虹梁や欄間には由緒ありそうな古色蒼然とした龍や獅子が彫られ、また天女が舞っていた。観音堂に掲げられていた鰐口はどっしりとして重量感があるものだった。

御朱印はご住職直々に押して下さったが、話好きの温かな方で観音巡礼の話が弾んだ。当日はピーカンの天気で初夏並みの暑さに汗を掻いていたのを気の毒がられて、良く冷えたお茶のペットボトルを頂いたが、これも仏縁というものであろうか。参拝時に納経所で茶菓などを頂くと誠に功德を頂いたような気持ちになって嬉しくなる。



(観音堂に彫られた龍と天女の彫刻と吊られた鰐口)



(観音堂の獅子の彫刻)

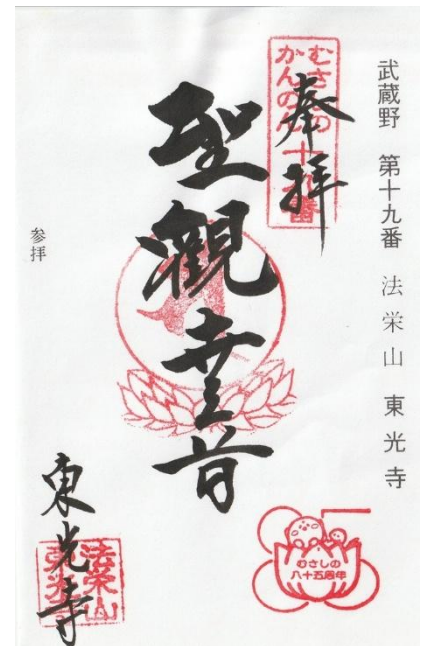
宗派：真言宗

札所本尊：千手観世音菩薩

交通：西武池袋線「入間市駅」から狭山市駅行バス黒須団地バス停下車、徒歩10分

参詣日：令和7年5月1日

第19番 法栄山 東光寺 (埼玉県入間市)



本堂と薬師堂の二つの堂宇があるだけの誠に小さな寺であった。本堂、薬師堂とも閉扉されていて中は拝観できなかった。

薬師堂は小伽藍ではあったが、古色蒼然とした格式と由緒を感じられる堂宇であった。欄間には風流な彫刻の風神、雷神像が掲げられていて、その表情には味があった。



(由緒ありそうな薬師堂)



(風神雷神像 ↑ ⇒)



宗派：真言宗 札所本尊：聖観世音菩薩

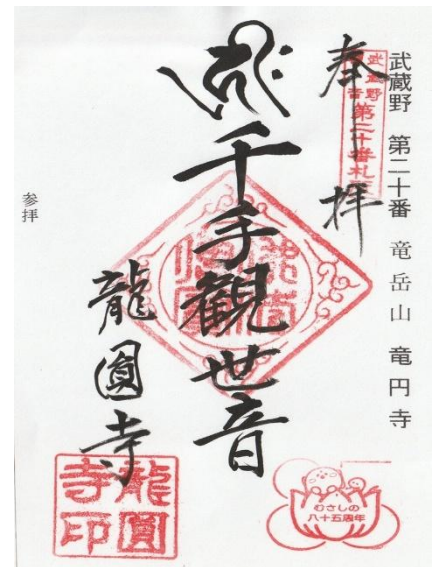
交通：西武池袋線・入間市駅から中神行バス「桂橋」下車5分

参詣日：令和7年5月1日

第20番 龍岳山 龍圓寺 (埼玉県入間市)



(格調高い龍圓寺観音堂、但し閉扉)



埼玉県西部産の狭山茶というのは宇治茶、静岡茶と並ぶ銘茶だそうで、この辺りには広大な茶畑が広がっていた。この東光寺の境内にも高さ3mもある「北狭山茶場の碑」なる石碑が建てられていた。また、茶畑の中を貫く農道の辻にも高さ4mに及ぶ巨大な石碑「北狭山茶場碑入り道」なる道標が建っていた。明治時代から茶業が埼玉県下の重要な産業になったことを記念して地元の茶業組合が建てたものだそう。後者はその大きさ故「日本一の道標」としてギネスブックにも登録されているそう。マ、狭山茶でも一服どうぞ。



(←境内に建てられていた北狭山茶場の碑)
(北狭山茶場碑入り道の道標、いちよう通り⇒)



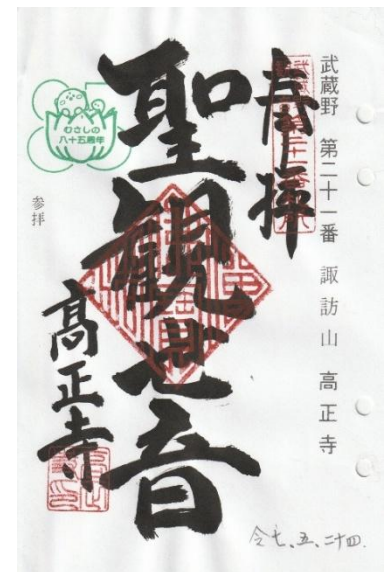
宗派：真言宗

札所本尊：千手観世音菩薩

交通：前札所第19番「東光寺」より徒歩5分。

参詣日：令和7年5月1日

第 21 番 諏訪山 高正寺 (埼玉県入間市)



この札所は西武池袋線・仏子駅から 10 分程歩いた市街地にあったが、武蔵野もこの辺りまで来ると加治丘陵が盛り上がり来て市街地にも畑などが拡がり緑の田園地帯の風情となってきた。この寺も裏山に深緑の山を背負い、山門も緑の樹木に囲まれて静謐な境内であった。本堂への石段の左右にはユーモラスな面貌の羅漢像が祀られていて心が和んだ。



古刹であったが、参詣客は誰も居らず、境内は禅寺らしい凜とした雰囲気だった。本堂（右写真）の白い花頭窓が禅寺の静謐さにアクセントを添えていた。しかし、住職も寺人の人影も見えず、本堂は固く閉じられ、御朱印もダンボール箱に入った書置きであったのは愛想が無かった。

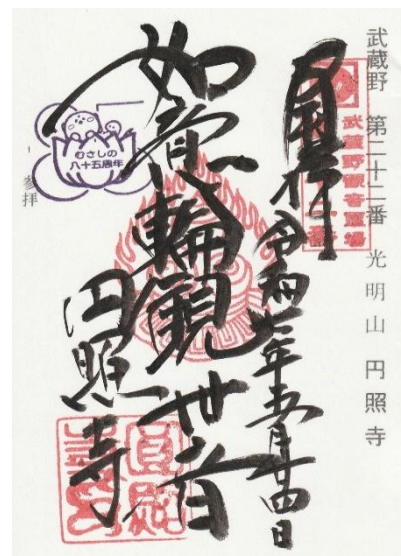
宗派：真言宗 札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武・仏子駅から徒歩 10 分。

参詣日：令和 7 年 5 月 24 日

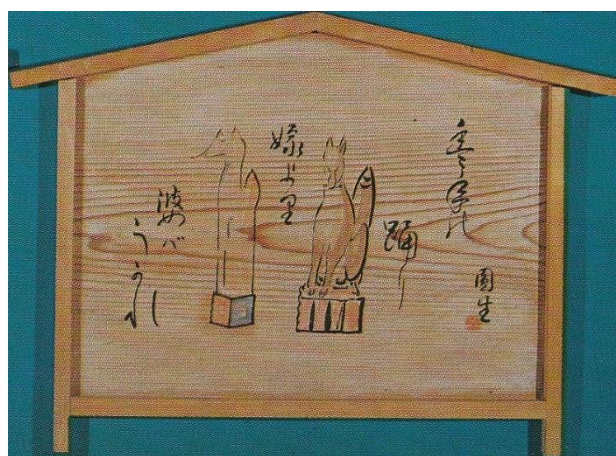
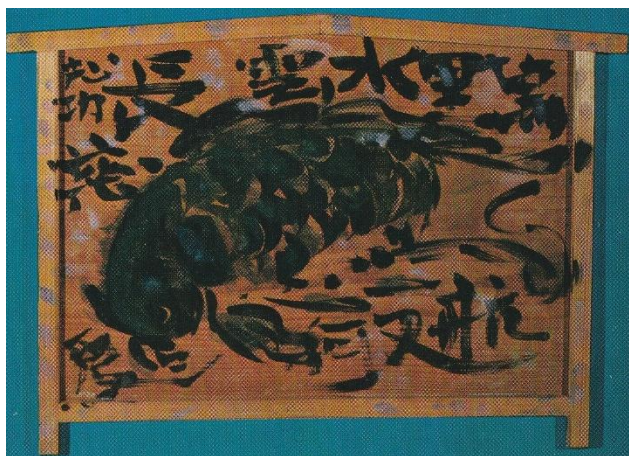


第22番 光明山 圓照寺 (埼玉県入間市)



この札所の創建は古く、平安時代に弘法大師が巡錫した折に奇瑞を感得して霊泉を加持したのが始まりだそう。その霊泉は今でも境内の半分を占める池泉となっていて、池の中島には弁天堂が建てられていてその中に祀られている弁財天は武蔵野七福神として崇められている。池泉には蓮が水面一面に茂っていて間も無く満開の蓮の花で再現された極楽浄土に化すであろうと思われた。

さて、この寺は「絵馬寺」とも呼ばれていて、昭和28年の弁財天尊開帳に際して絵馬供養奉仕を得る為に各界の名士に奉納を依頼した絵馬が数百枚保存されているそうで、片山哲元首相、東竜太郎元都知事、文学者の佐々木信綱、武者小路実篤、版画の棟方志功、植物学者の牧野富太郎、落語の三遊亭円生などの著名人が書いた絵馬が本堂や庫裏に掲げられて公開されていると聞いていたので、私の好きな棟方志功画伯の絵馬には何が書かれているのかと楽しみにして出掛けたが、残念ながら本堂は閉じられており、また、絵馬の公開展示は展示替えや修復のために現在は公開していないとのことでガッカリしたが、納経所に居られた若いご住職がご親切にもかなり前にこの寺が参拝記念品として頒布したと思われるこれらの寄進絵馬の年代物の古い絵葉書集（「圓照寺の絵馬集」）を戸棚の中からゴソゴソと探し出して埃を払って見せて下さり、おまけに、タダで授与して下さいました。



（左：棟方志功画伯寄進「遊鯉」絵馬、右：三遊亭円生師匠寄進「狐と文」。何れも絵葉書から引用）

御朱印を頂いた後のご住職との世間話で絵馬の話題が出て、話は絵画の世界にも及び、棟方志功画伯の生地・青森やアトリエがあった鎌倉の志功版画美術館なども閉館となって、今では同画伯の版画が鑑賞できる常設館が無くなって寂しいことなどが話題に上り、また、話は平山郁夫画伯の絵にも及んで、同画伯の生地・広島県の生口島にある平山郁夫美術館や山梨県・八ヶ岳高原にある平山郁夫シルクロード美術館などの話になった。いずれも首都圏からは遠方にあるので、鎌倉の旧宅を常設美術館に開放して貰えれば有難いのだが・・・と話されていた。

武蔵野観音霊場 33 札所の寺は、場所柄本堂も閉扉され、納経所や庫裏も閉まっているような寺が多いが、やはりご住職などと世間話が出来ると寺は観音菩薩と直にお話させて頂いたような気持ちになって遥々参った価値があるというものである。

私は全くのゲイジツ（芸術）音痴であり絵画にも全く疎い人種であるが、上述の二画伯の絵だけは好きで、自宅が鎌倉に近いので鎌倉山にあった棟方志功版画館がまだ健在だったころにはよく自転車を転がせて棟方版画を見に行ったものだったし、当時の私の年賀状は彼の描いた豊艶な美女の顔や仏像をコピーで彫った模作盗用版画であった。今は、無名時代の画伯を支援した鎌倉のトンカツ屋「勝烈庵」が毎年一回配布している志功刻の釈迦十大弟子を写した絵皿を毎朝取り換えながら、今朝はどの弟子の姿だったかと思い巡らせながら朝食を喰っている次第である（下写真）。



平山郁夫画伯の広島県尾道市沖の瀬戸内海の生口島にある平山郁夫美術館には、私の実家からも近かったので帰省の度に何回も観に行ったし、小海線沿線にある平山郁夫シルクロード美術館では、月光の砂漠を行くラクダ隊商の幻想的な大冊に感動したものだ。



宗派：真言宗 札所本尊：如意輪世音菩薩

交通：西武池袋線・元加治駅から徒歩3分。前札所 21 番高正寺から歩 20 分

参詣日：令和 7 年 5 月 24 日

第23番 寂光山 浄心寺 (埼玉県飯能市)



武蔵野観音霊場札所も、この第23番札所からは「奥武蔵」と呼ばれている武蔵野西北部の飯能市と日高市に入る。ここまで来ると、首都圏の秘境・東京の奥座敷と言われている秩父盆地も西武秩父線の電車で半時間程の距離である。因みに、秩父地方にも秩父観音霊場34札所があり、観音霊場巡りの巡礼者はこの武蔵野観音霊場札所とは比べ物にならない程多い。

この寺は「矢嵐の毘沙門天」として知られていて毘沙門尊を祀る毘沙門堂が建っていたが、本堂も観音堂も毘沙門堂も全て固く閉じられていて取り付くシマも無かった。

参詣者も一人も無く、御朱印も書き置きであった。

左様な訳で、記すべき事項も無し。

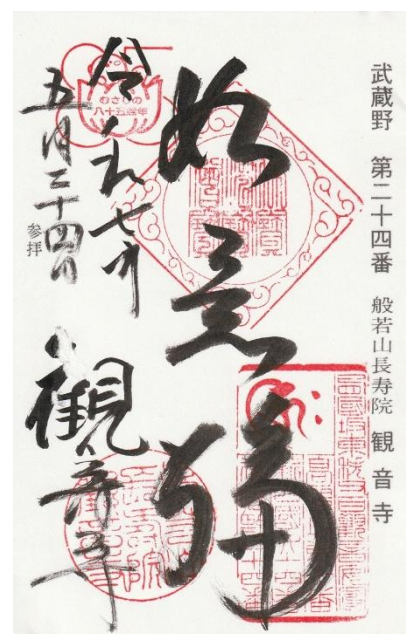
宗派：曹洞宗

札所本尊：十一面観世音菩薩

交通：西武池袋線・飯能駅から徒歩15分。

参詣日：令和7年5月24日

第24番 般若山 観音寺 (埼玉県飯能市)



この札所は市街地の真ん中にありながら、緑濃い樹林に囲まれた広い境内だった。境内の直ぐ傍を蛇行して流れている名栗川の広い段丘の上に建てられている所為かも知れない。江戸時代には名栗川を往復する水運船の船頭によって深く信仰され、そのために下の河原にあった往時の船着き場からこの寺に続く石段が往時の本当の参道であったという。

さて、武蔵野観音霊場の札所は殆どの寺が本堂などの堂宇を閉じていて扉の外から拝むという寂しい寺が多かったが、この寺は本堂がオープンされていて、久しぶりに堂内で拝むことが出来た。

しかしながら内陣には上がれず、また、須弥壇には沢山の瓔珞がぶら下がっていて、本尊の如意輪観音像も、また、本尊の横に祀られていると言う日本百観音霊場札所の写し観音百観音像も瓔珞の陰に隠れて拝観できず残念であった。

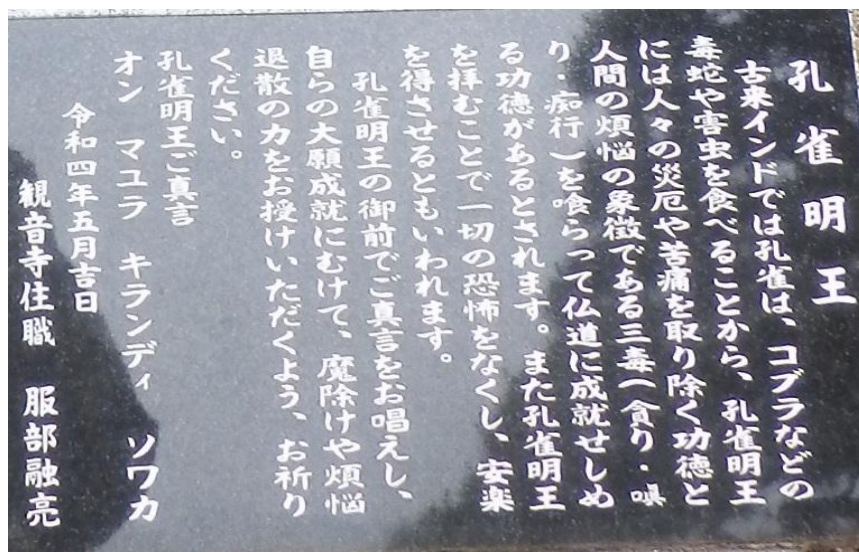
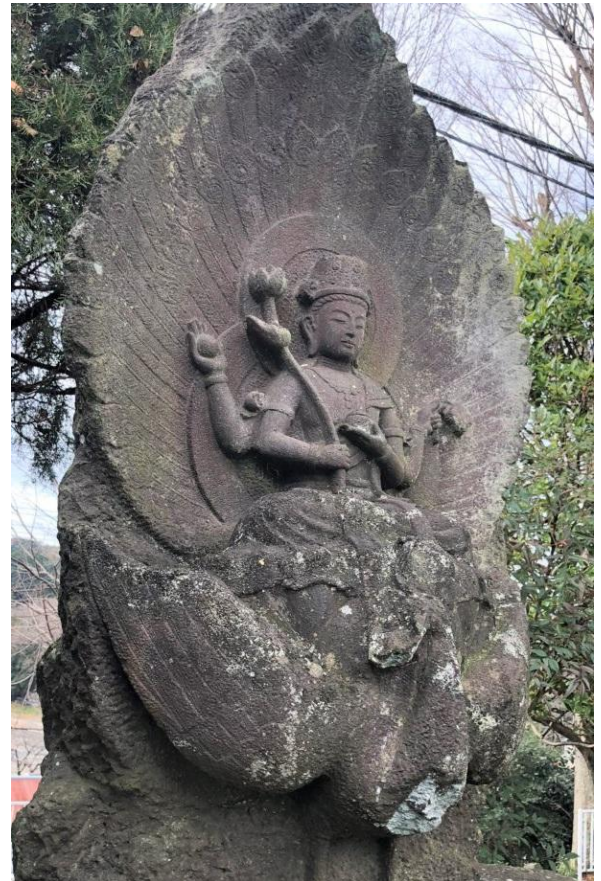
特に、観音菩薩が如意輪観音である場合には、その妖艶なお姿を是非とも拝観したいと常々から願っているが、斯様な下司な魂胆を持っている輩にはなかなか顔をお見せにならないのであろう。逆に地獄に送られて股裂きの刑に処せられるのがオチであろうか。同寺のHPで公開されているお姿（右写真）でも拝ませて頂くとしよう。



その替わりと言ってはナンであるが、参道を挟んだ本堂の向かい側には四国八十八箇所遍路の砂踏み霊場が設えられていて一周 10 歩ほどで何十回目かの四国遍路巡礼を結願したことになる。誠に結構なことである。

また、その横には、珍しい孔雀明王像が祀られていた。孔雀明王は衆生の苦悩を取り除き、また人間の煩悩を喰らって仏道に成就させる功德がある印度渡来の有難い仏様である。

この八十数年間の人生を煩悩の塊で過ごしてきた私メは俎板の上に載って孔雀明王様にわが身を喰って頂いて「捨身飼虎」たらんとする気持ちで孔雀明王像を拜んできたと言いたところだが、またまた新しい煩悩が生まれてきて如何ともし難し。嗚呼、情けなや。

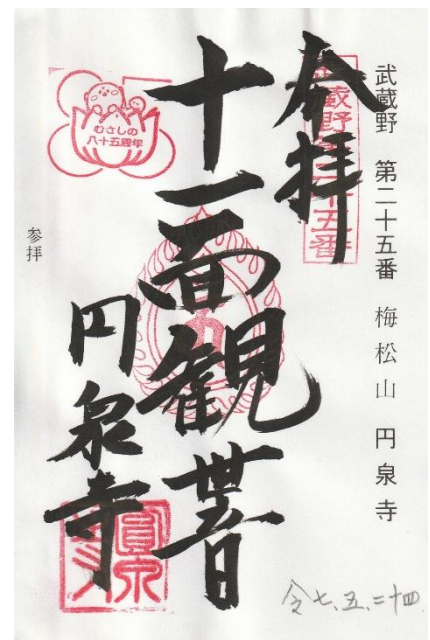


宗派：真言宗 札所本尊：如意輪観世音菩薩

交通：西武池袋線・飯能駅から徒歩 15 分。前札所第 2 3 番・浄心寺より徒歩 30 分。

参詣日：令和 7 年 5 月 24 日

第25番 梅松山 圓泉寺 (埼玉県飯能市)



この札所は飯能市街地のすぐ郊外にあるが、非常に足の便が悪い所だった。ガイドブックに依れば、東飯能駅からバス便があるとのことであつたが、確かにあるにはあつたが、日に1本しかないというダイヤで利用できず、歩いて片道1時間半掛って草臥れ申した。

本堂、観音堂とも扉が3寸くらい開くようになっていたので、僅かな扉の隙間からご本尊を拝ませて頂くことができた。御朱印は境内のカフェ売店での書き置きであつた。



(左：観音堂、右：本堂、銅像は弘法大師像)



(本尊：十一面観音、撮影承諾)

宗派：真言宗 札所本尊：十一面観世音菩薩

交通：西武池袋線・東飯能駅から徒歩1時間半。

参詣日：令和7年5月24日

第26番 高麗山 聖天院 (埼玉県日高市)



西武鉄道・秩父線の^{こま}高麗駅や JR 八高線の^{こまがわ}高麗川駅から西の武蔵野地域は、関東平野の西端に位置し、武蔵野台地というよりも秩父山地の入り口と言った方が相応しい山中の地であった。水系で言えば、秩父山地の東端・狩場坂峠を水源として最終的には荒川に合流する高麗川が、河岸段丘の両岸が山地になっている溪谷をウネウネと蛇行して流れ出ている場所である。この溪谷に沿って飯能から秩父までを繋いでいるのが西武鉄道・秩父線であり、東京方面と秩父を結ぶ交通の要衝でもある。しかしながら、東京方面から電車でここまで来れば、都心、郊外、田園、里山と辿って随分山奥の辺境に入ってきた気がしてくる。

さて、JR 八高線の高麗川駅付近には番外・霊巖寺があり、そこから高麗川に沿って上って行くと、第26番札所の聖天院から第33番結願寺の八王寺迄の9寺が分布している。何れも山寺で特に第32番天龍寺（子ノ権現）は吾野駅から山道を片道3時間程歩いて登らなければならないし、次の札所の結願寺第33番八王寺（竹寺）は子ノ権現から山稜を1時間半ほど辿った場所にある。何れも人家や集落が全くない標高600mほどの山奥の山寺であり、「関東ふれあいの道」や奥武蔵（秩父）ハイキングコースにもなっている。

この辺りは拙宅がある神奈川県藤沢市の湘南海岸からは僅か80キロメートル程の距離であるが、JR東海道線、同相模線、同八高線、西武鉄道・秩父線と乗り継いで片道約3時間を要するような辺鄙な場所である。今迄の第1番から第25番札所迄は日帰り6回（6日間）で巡って来て、残るは上記の9札所となったが、これを日帰りで往復するとすれば4回（4日）が必要になる計算となる。これは、自宅から札所の最寄り駅までの電車での往復に6時間を要する為に、日帰り1回で巡拝できる札所の数が極端に限られるからである。

しかし、吾野辺りで1泊すれば、何とか残り9札所を1泊2日で廻り終える目途がついたので、梅雨の僅かな中休みを狙って巡拝してきた。番外の霊巖寺から結願寺の第33番・八王寺（竹寺）までの9札所までを巡り終える予定で出掛けたが、この道中は随分長くて途中で足腰がストライキを起こし、結果的に第28番・瀧泉寺、第29番・長念寺、第30番・福德寺の3札所は今回は中抜きにして割愛し、後日に再び出直す羽目になった。

さて、今回は番外寺の霊巖寺から始めたが、番外寺の項は末尾に記すとして、ここでは第26番・聖天院から書き始めることとしたい。吾野の辺りには宿が無いが、運良く吾野駅近くの「ゲストハウス吾野」という築150年の古民家のゲストハウスの予約が取れたので大助かりだった。この宿については後で触れる。

さて、前置きが長くなったが聖天院に戻ろう。この寺は番外札所・霊巖寺と高麗川を隔てた対岸にあるが、高麗川はこの付近で大きく蛇行していて、半島のように突き出しているその突端に霊巖寺がある。聖天院は川の対岸のすぐ近くに見えるのであるが、大きく蛇行している川には橋が無いので来た道を前詣の霊巖寺から一旦高麗川駅の方に戻って大廻りして聖天院へ行かねばならなかった。朝一番の草臥れ儲けとなったが、マ、これも修験修行の内であろう。

さて、右のトーテムポールは西武高麗駅前の駅前広場に立っているちょっと変わった標柱であるが、一体何の標柱であろうか。

この近くにある日和田山の岩場にロッククライミングの練習に出掛けたり、日和田山や百万本の曼殊沙華で名高い巾着田などにハイキングに行かれた方はご覧になっていると思うが、左様、7世紀の大昔に唐に攻め滅ぼされた高句麗からの渡来避難民が関東各地で高麗人集落を作っていたが、宝亀年間（8世紀）になって当地に集められ高麗人の一大居住地（高麗郡）となったのを記念して建立された魔除けのための境界標（将軍標）で「天下大將軍」「地下女將軍」と書かれていて、朝鮮半島の村落では普通に見られるものだそう。日本の辻などに祀られた道祖神、オノ神、庚申塔と同様な魔除けであろう。

冒頭のこの寺の写真の参道入口にも同じ標柱が建っている。天下大將軍は男性像、地下女將軍は女性像であるが夫々がユーモラスな顔つきで彫られていて微笑ましい。高句麗も「何処も同じ嬉天下」であろうか？

この寺は奈良時代創建の古刹だそうで、高麗郡（こまごおり）最初の長に任命されて高麗王の姓を賜った高麗渡来人・高麗王若光の菩提を弔うために創建されたという。境内には高麗王若光の廟があり（右写真）、また本堂の裏手奥には王仁博士、太宗武烈王、広開土大王の石像や高さ16メートルに及ぶ十七重慰霊塔が建てられていて（次頁写真）朝鮮半島独特の文化の色彩が濃い境内であった。





また、この寺の近くにある高麗神社は、高麗王若光の遺徳を偲んで建立された寺院で、祭神は高麗大明神として祀られた若光である。参道の入り口には同じく「天下大將軍」「地下女將軍」の魔除け標柱が建立されていた。一帯に韓国ムードが漂っていた。

また、神社の境内には高麗家住宅があった（国重文）。江戸時代初期に建てられて高麗家代々が住んでいた住宅だそう。



（高麗若光を祭神とした高麗神社の將軍標）



（国重文 高麗家住宅）

聖天院は古刹・大刹で、境内には種々の伽藍があった。何れも由緒と風格がありそうな堂宇であった。山門は二層の重厚な楼門で、力強く彫られた風神雷神像が圧巻であった。



（重厚な楼門山門）



（楼門の風神⇒）

阿弥陀堂は山内で一番古い伽藍で、阿弥陀三尊と共に札所本尊である平安時代末期の聖観音が祀られていた。更に石段を登った所には壮大な本堂が建てられていた。



(阿弥陀堂)



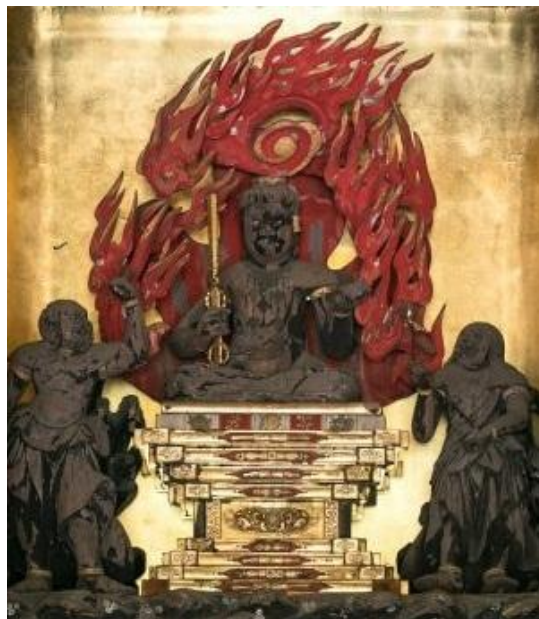
(阿弥陀堂本尊 阿弥陀如来)



(札所本尊 聖観世音菩薩)



(堂々として荘厳な本堂)



(本堂の本尊 不動明王⇒)

武蔵野観音霊場 33 札所の各寺はどこも入山料や拝観料は無かったが、この聖天院 1 寺だけは拝観料があった（400 円也）。武蔵野巡礼の前に廻った江戸 33 観音霊場や鎌倉 33 観音霊場でも殆どの札所が拝観料無料だったから、久しぶりにお布施を取られたような気がしたが、古色豊かな伽藍が全て開扉されていて須弥壇の諸仏も内陣で拝観できる訳だから、お布施を払ってもお釣りが来ると言うべきだろう。

おまけに、本堂から下界を見ると、足下一面に高麗の街並みや田園が望まれて、誠に素晴らしい眺望が楽しめた。極楽、極楽。

境内には庭師が数人入って花の終わった躑躅の刈り込み作業をしていた。広大な境内は何段もの台地になっていて階段の上り下りに草臥れたが、白砂が敷き詰められて塵一つ落ちていない伽藍は誠に清々しいものだった。



（本堂前展望台の足下には高麗の街並みや田園の眺望が広がっていた）



（塵一つ落ちていない白砂の伽藍庭園）

宗派：真言宗

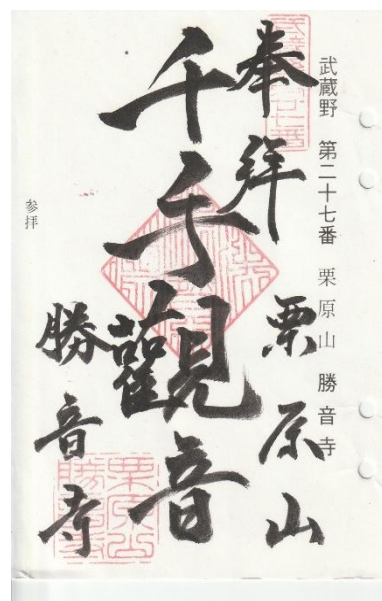
札所本尊：聖観世音菩薩

交通：番外・霊巖寺から 40 分。JR 高麗川駅からは徒歩 30 分。

参詣日：令和 7 年 6 月 12 日

※本稿の仏像画像は同寺HPから引用

第27番 栗原山 勝音寺 (埼玉県日高市)



(鄙びた参道)

前札所の聖天院からトボトボと歩いて1時間近く掛った。境内も無いような小刹で、本堂も閉鎖されていて無住であった。御朱印は近くの民家で頂くことになっていた。従って、外からの参詣者には取り付くシマも無い寺であった。

よって、記すべき事項も無いが、札所本尊の千手観世音菩薩は左右の脇侍と共に、鎌倉時代の秀作だそう。脇は左が毘沙門天、右が不動明王（同寺HPより引用）。



この札所の手前で高麗川に掛る小さな橋を渡ったが、兩岸の樹林が高麗川の清流に緑に映えて心が自然に溶け込むようであった。



宗派：臨済宗

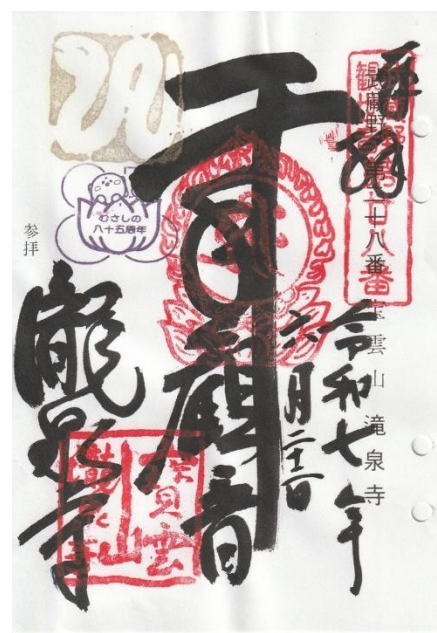
札所本尊：千手観世音菩薩

交通：前札所・聖天院からは
徒歩 40 分。西武池袋線・
高麗駅からは徒歩 30 分

参詣日：令和7年6月12日

2025/06/12

第28番 寶雲山 瀧泉寺 (埼玉県日高市)



この寺は境内に植えられた百数十種の蓮の花で知られているそうであるが、残念ながら開花には未だ早かった。満開になる真夏には極楽浄土もさぞやと思わせる天国の情景が出現するのであろう。

その代わり、簡素な本堂の百畳分の天井には仏画が一面に描かれていて壮観であった（右上写真、胎藏界曼荼羅図）。

御朱印を押して下さった年配のご婦人（住職の令夫人？）が梅雨の中休みの酷暑で汗ダラダラの小生を見て「この暑さの中を歩いて巡礼されているようで、誠にご苦労様です。チョット待っていて下さい」と庫裏に消えられて、「昨日知り合いから届いた山形のサクランボですが、よく冷やしてありますので、お召し上がり下さい」とこれも良く冷やされたお茶のペットボトルと寺のマークが入った紙袋の菓子を頂いた。サクランボは大変甘くて美味しかった。結構酸味もあって、少々涙が潤んできたが、この涙は酸味の所為ばかりではなく、このご婦人（垂迹されたご本尊の千手観世音菩薩の変化？）のご親切に依るものではなかろうか。

また、境内には右下写真のようなユニークな石像も建っていた。この寺は飯能七福神を祀る寺でもあるので、或いは寿老人かも知れない。

帰路は高麗川の土手沿いに造られていた緑陰の散歩道を清流の川風に吹かれながら武蔵横手駅まで歩いて戻った。

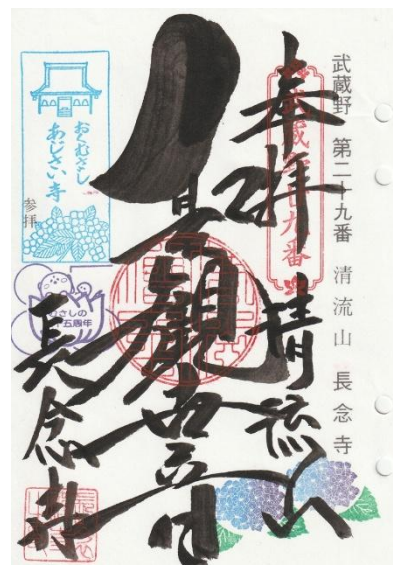
宗派：真言宗 札所本尊：千手観世音菩薩

交通：西武池袋線・武蔵横手駅から徒歩 30 分

参詣日：令和7年6月21日



第29番 清流山 長念寺 (埼玉県飯能市)



(参道の紫陽花のトンネル。奥の石碑は一本の石柱の六面に彫られた六地藏尊、なかなか味があった)

前札所の第28番・瀧泉寺から梅雨の中休みの炎天下を流れ出る汗を拭き拭き1時間ばかり秩父方面に歩くと、石灰石運搬の大型ダンプカーが列をなして往来する国道299号(秩父街道)の傍にこの札所があった。本堂の前に着いた時には熱中症でアタマもカラダもフラフラで倒れる寸前であった。従って伽藍の日陰に逃げ込むのが関の山で、ゆっくり拝観や参拝をする余裕は無かった。従って観音堂を閉まった扉のガラス越しに拝むのが精一杯であった。時節柄、境内には紫陽花が咲き誇って全身が紫陽花色に染まるようであった。土蔵造りの観音堂は簡素な御堂であったが、祀られている札所本尊は伝運慶作の聖観世音菩薩だそう。両脇は韋駄天であった(下左写真。右写真は札所本尊・聖観世音菩薩拡大)。



宗派：曹洞宗

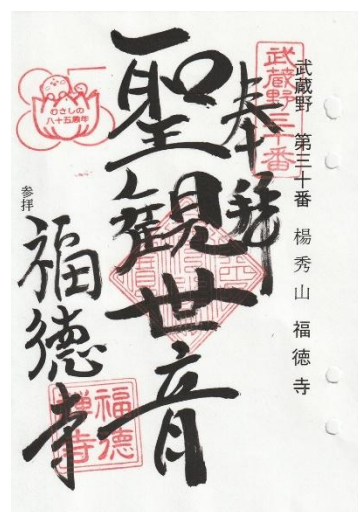
札所本尊：聖観世音菩薩

交通：武蔵横手駅から徒歩20分。

参詣日：令和7年6月21日

2025/06/21

第30番 揚秀山 福德寺 (埼玉県飯能市)



高麗川の溪谷沿いに飯能駅から西武秩父線の電車に 20 分も乗れば愈々秩父への入り口である吾野地方に着く。この札所は東吾野駅から 30 分ほど坂道を歩いて登った山あいの集落の中にあつた。無住の寺だから境内には誰も居らず静かなものだった。

境内には屋根の反り具合が優雅で端正な阿弥陀堂があつた。この堂宇は宝形造りの伽藍で、鎌倉時代に建てられた阿弥陀堂建築様式を今に伝える貴重な建築物で国重文に指定されている。阿弥陀堂には阿弥陀堂本尊の阿弥陀三尊が祀られているそうだが、これは秘仏のため年 3 回の阿弥陀法要の時しか開帳されない。この阿弥陀三尊像は阿弥陀堂と同じく鎌倉期に鑄造された鉄製の仏像で、信州善光寺から勧請されたものだそう。

札所の聖観音像は寺本尊の阿弥陀如来と一緒に本堂に安置されているそうだが、無住のために閉扉されていてそのお姿は拝観できなかった。

御朱印は秩父方面に徒歩 1 時間程遡った本寺の興福寺で頂いた。



宗派：臨済宗

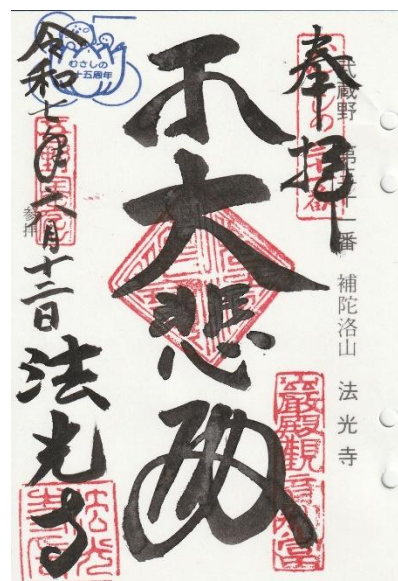
(屋根の反りがシャープな国重文・阿弥陀堂)

札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武秩父線・東吾野駅から徒歩 30 分

参詣日：令和 7 年 6 月 21 日

第31番 補陀山 法光寺 (埼玉県飯能市)



第27番勝音寺で足腰がストライキを始めたので、次の第28番から30番までの3札所は次回廻しにすることとして、勝音寺の最寄り駅である西武秩父線の高麗駅まで重い足を引き摺って小1時間ばかり歩き、高麗駅から吾野駅まで電車で飛天した。

実は、今回の巡拝は本日中に当寺第31番法光寺迄の山麓にある札所を廻り終わって吾野宿で一泊し、明日は霊峰二山と呼ばれている標高600メートルの奥武蔵の修験山岳寺院2寺に登るのが関の山で、その前にこの31番札所・法光寺に立ち寄る時間的余裕がなく、どうしても本日中にこの31番札所の参拝を済ませておかなければならなかった。

さて、この寺は西武秩父線・吾野駅のすぐ前にあった。この寺の裏山を1キロ程登ると奥之院（鍾乳洞の洞窟）があり、その洞窟の奥に十一面観音菩薩が安置されていた。岩殿観音窟（観音窟石龕）という。行基菩薩がこの地を巡錫の折にこの鍾乳洞に一夜の宿をとったが、その時に観音菩薩を感得して付近にあった霊木で十一面観音像を刻み安置したのが始まりで、以来関東三大岩殿の一つとして隆盛し参詣者の列が絶えなかったという。

この札所の本尊はこの岩殿（奥の院）に祀られている十一面観世音菩薩であり、境内の観音堂に祀られている観音菩薩は奥の院まで登れない参詣者の為の御前立であるそう。

奥之院派のワタシ奴としては、この奥之院には是非とも参拝しなければならない。奥之院までの参道は廃道に近いくらいに荒廃していて、折から迫っている夕闇の中で山道も見えず足元も覚束なかったが何とか登ることができた。しかし八十翁の老体にはハアハアと息切れがして草臥れ申した。 (夕闇に沈む奥之院への山道⇒)



奥之院側面の朱塗りの扉を開けて入った洞内にはひんやりとした冷氣（靈気）が漂い、折から夕闇も迫ってきて悪行を重ねてきた小生は怖くて体が震えた。洞窟には十一面観世音菩薩が垂迹されたとされる大威徳明王の怖い顔が漂っているようで、その怖い目に睨まれて御叱呼をチビリそうになった。オン マカ キャロニキャ ソワカ。



（法光寺 岩殿観音窟の朱色の扉）



（洞窟に祀られた札所本尊・十一面観世音菩薩。右は拡大版）



（観音窟での祈祷会の様子 同寺ＨＰから引用）

奥之院参拝を終えて真っ暗になった奥之院の山道を駆け下ってお寺に帰ると、ザックを置かせて貰っていた本堂前のベンチに老齢のご婦人が座っておられた。その御婦人曰く「奥の院からのお帰りが遅いので、ひょっとして暗くなった山中で道を失って迷っておられるのではないかと心配になって無事のお帰りを待っていた」とのこと。ご住職の御母堂らしかった。

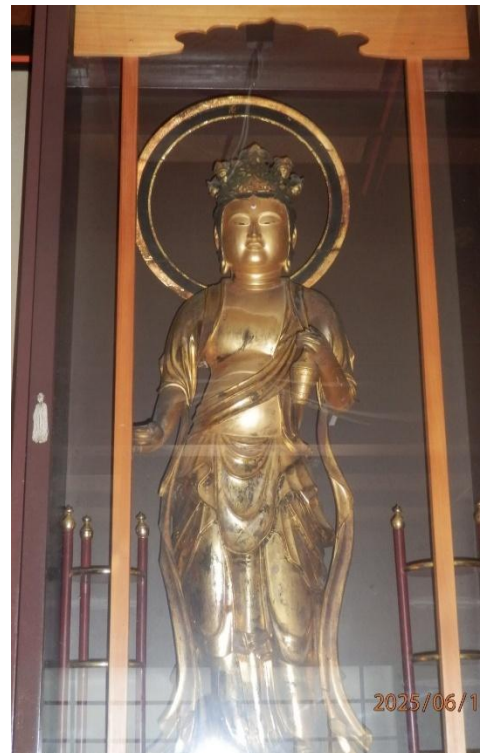
同じ観音霊場の札所でも、巡拝者に斯様な親切な対応をされる寺もあれば、逆に突っ慥貪な対応の寺もある。マ、寺の参詣者への対応態度も夫々の寺の事情もあろうから一概には言えないが、やはり、このような心が籠った対応をして頂くと心が温かくなって目頭が涙で潤んできて、ご婦人の姿が柔和で慈悲に満ちた観世音菩薩のお姿に重なって見えるのであった。仏縁とはこのようなことを指すのではなからうか。

(法光寺観音堂の十一面観世音菩薩お前立⇒)

さて、今回は武蔵野観音霊場巡礼で初めての一泊巡礼の道行となった（これ迄の6回は全て日帰り）。吾野地方にはホテル・旅館などは無いが、たまたま吾野駅近くの秩父往還吾野宿にゲストハウスがあったので今晚はそこに泊まった。築150年の古民家の古風な宿で、大きな大黒柱や調度なども黒光りがしていた。

ご主人は国会議員の公設秘書として永年東京で勤務されていたが、故郷の吾野宿の歴史・民俗・文化を守り再生する為に15年ほど前に吾野に戻られて吾野宿まちづくり活動に尽力されているご仁だった。『吾野宿の歴史散歩』という郷土史の著作もあった。

今晚の宿泊客は小生1人であったので、食事をしながら2時間ばかり懇談したが、吾野宿や飯能地域の歴史・民族の話から始まって、日本の世の中のありようの変遷、現在の文化や教育や社会に関する貴重なご意見も伺った。小生と同年代の方であったので考え方が一致することも多かった。翌朝はお忙しい中を次の観音札所「子ノ権現」への山道の途中まで車で送って下さって足腰が草臥れた小生には大助かりだった。奥武蔵や秩父にお出掛けの折には是非オススメしたい。西武秩父線吾野駅から歩10分、「ゲストハウス吾野宿」。



(ゲストハウス吾野宿)

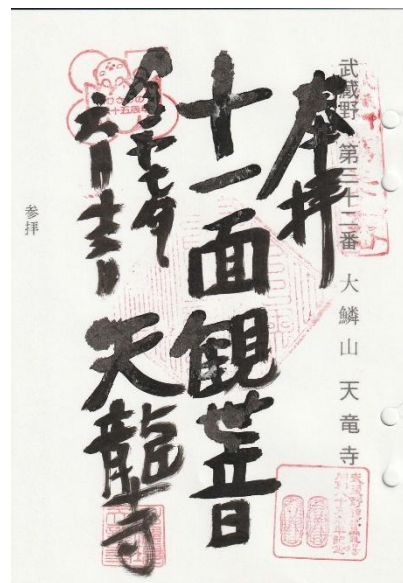


宗派：曹洞宗

札所本尊：十一面観世音菩薩

交通：西武秩父線・吾野駅前 参詣日：令和7年6月12日

第32番 大鱗山 天龍寺（子ノ権現）（埼玉県飯能市）



この第32番札所「天龍寺」と第33番札所（結願札所）「八王寺」は標高 600 メートルの秩父山地の山奥にあって、飯能霊峰二峰と呼ばれている山岳寺院である。周囲には集落も民家も全く無い山また山の中である。天龍寺までは吾野の町から徒歩で3時間程掛かり、結願寺の八王寺までは更に稜線伝いの山道を1時間半ばかり辿らねばならない。両寺とも人里離れた山奥の山寺であり、斯様な山奥に造られた寺は往時はやはり山岳修験の拠点であったのではなかろうか。

さて、まずは第33番「天龍寺」から。この寺は天龍寺という寺号よりも「子ノ権現」（ねのごんげん）として知られている。この辺りは奥武蔵ハイキングコースになっており、参詣というよりもハイカーのスポットとなっているようだ。今回は、昨夜泊まったゲストハウス吾野宿のご主人が途中の車道の終点の浅見茶屋まで車で送って下さったので大助かりだった。

子ノ権現という名称は、この寺を開いた僧が子年、子の月、子の日に生まれたことから「子ノ聖」と呼ばれ、やがてこの聖の自作とされる子ノ聖大権現を本尊として祀ったことに由来する。江戸時代には徳川将軍家も篤く信仰した山岳霊場であったそう。

鬱蒼とした樹叢に囲まれた古色蒼然たる本坊（庫裏）の伽藍屋根は茅と杉皮の多層葺で、山寺の古刹に相応しい風格があった（右写真）。重さ2トンの鉄製大草鞋や参道入口にある樹齢800年の二本杉大木も見応えがあった。この二本杉は、開山・子ノ聖が箸がわり使った杉の枝が根付いたものだそう。



宗派：天台宗

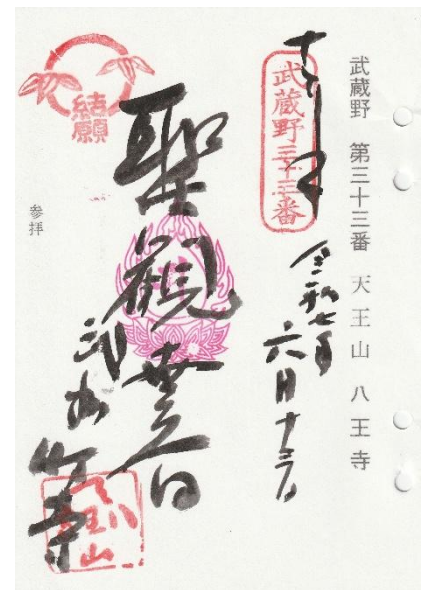
札所本尊：十一面観世音菩薩

交通：西武吾野駅から徒歩 3.5 時間

参詣日：令和7年6月13日

（風格があった天龍寺本坊）

第33番 医王山 八王寺（竹寺）（埼玉県飯能市）



（如何にも山岳修験寺らしい神社伽藍様式の本殿、茅葺）

武蔵野観音霊場33札所巡礼もいよいよこの寺で結願となった。発願したのが今年の3月中旬だったから、結願するまで3ヶ月掛った勘定になる。

この八王寺は、前札所・子ノ権現から杉の人工植林帯の山道を2時間ほど歩いた所にあった。この山道は「関東ふれあいの道」に指定されているハイキング道ではあるが、道幅が極端に狭い上に杉の木の根が浮き上がり、またゴロタ石などがゴロゴロした急な山坂道で非常に歩き難く、ここで滑って転倒でもしたら直ちに西方からのお迎えが来る結果に終わるので、その分余計に神経を遣って草臥れ申した。他のハイカーや参詣者には誰一人にも遭わなかったので、万が一転んで骨折しても救助を求める方法も無いという山道であった。

この寺は広葉樹林や竹林に囲まれた境内に茅葺の本殿始め本坊、牛頭天王宮、観音堂などの風情ある伽藍が配置されていて、それらの堂宇が周囲の深緑の樹叢に溶け込んで如何にも山寺らしい静謐な雰囲気醸し出していた。



（茅葺が見事な本坊）



（茅葺の風情ある牛頭天王宮（本堂）

また、この寺は平安時代に慈覚大師によって開山された寺歴千年以上の古刹で、山岳霊場として隆盛を極め、明治の神仏分離令も逃れて牛頭天王とその本地仏である薬師如来の神仏習合を今に伝える関東地方唯一の貴重な神仏混淆遺構寺院である。

本坊から坂道を登ると、銅製の鳥居に茅の輪が設えられていた。その輪を潜って更に上がると神社の本殿（冒頭の写真）があり牛頭天王坐像と八人の童子（八王子）が祀られているが、12年に一度の丑年にしか開帳されないそうで、残念ながら拝観できなかった。その替わり境内にあった牛頭明王像を拝観してきた。



（一年中供えられている茅の輪） （牛頭明王像⇒）



さて、札所本尊・聖観世音菩薩は、簡素な観音堂に祀られていた。薫風が吹き、松籟（竹籟？）がさやさやと鳴る観音堂の前でこの札所の本尊・聖観世音菩薩の真言を三回唱えてから武蔵野観音霊場巡礼結願の般若心経を読誦したのであった。

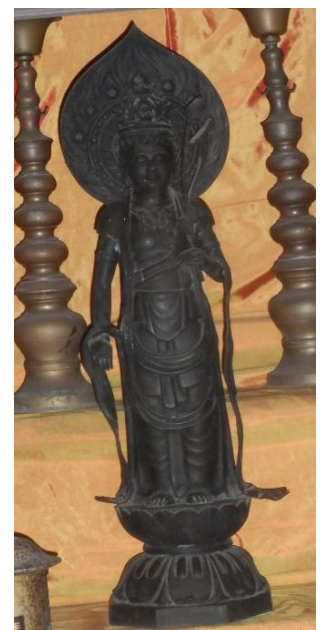
オン アロリキヤ ソワカ、 オン アロリキヤ ソワカ、 オン アロリキヤ ソワカ。

観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊 皆空度 一切苦厄 舍利子・・・。

（実は昨日巡る予定だった途中の3札所が未詣になっているので、真の結願ではなかったが・・・）。



（簡素な観音堂） （札所本尊・聖観世音菩薩⇒）



この寺は、ご住職の法話などを聞きながらの本格的精進料理が好評なお寺としても知られているが、これは事前予約制とのことで頂戴できなかった。裏山で採れた山菜と薬草の精進料理が竹の器で出されるのだそう。

帰路は小殿という山麓の小さな集落迄 2 時間ほど山道を歩いて下り、そこから路線バスで飯能市街まで戻った。この山道も急な坂道である上に木の根が浮き出っていて、また、ゴロタ石やザレ場のトレンチになっていて慎重に一步一步足を運ばねばならなかったのも運動神経と視力と筋力を使い果たして往生した。バスに乗る時も足腰がフラ付き、ステップを上れなくてマイリ申した。

宗派：天台宗 札所本尊：聖観世音菩薩

交通：西武・吾野駅から徒歩 5 時間。国際興行バス・小殿バス停からなら徒歩 2.5 時間

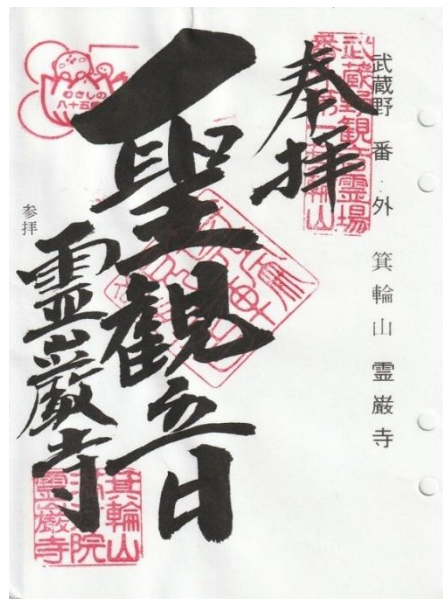
参詣日：令和 7 年 6 月 13 日

(次葉に番外「霊巖寺」の項あり)

番外 箕輪山 霊巖寺 (埼玉県日高市)



(端正な本堂)



この札所はＪＲ八高線「高麗川駅」が最寄り駅であるが、寺までの道が分かり難くて、地元の方なら半時間もあれば充分と思われる道に１時間近く掛かった。

さて、一般的に番外札所というのは、普通は〇〇観音霊場札所巡礼の正式な札所ではないが、〇〇観音霊場と何らかの寺縁や由緒がある寺が特別(または準)札所として札所番付に加わっているのが普通であるが、この寺が何故番外札所に加わっているのかその由緒を聞いたかったのであるが、お寺には誰も居られず聞けなかった。

この寺の本堂は開扉されていて内陣も拝めた。寺院本来の本尊は厨子に納められた地藏菩薩の軸で、秘仏の為拝できなかったが、札所本尊の聖観音木造は三方開きの厨子に祀られていて拝顔できた。簡素ながらもなかなか味のある素朴な仏様であった。



(須弥壇。中央は秘仏地藏菩薩軸の厨子、右端の厨子に聖観音)

(札所本尊・聖観世音菩薩立像⇒)

宗派：真言宗 札所本尊：聖観世音菩薩

交通：ＪＲ八高線高麗川駅から徒歩 40 分

参詣日：令和 7 年 6 月 12 日



以上を以ちまして武蔵野観音霊場三十三札所及び番外1札所を結願致しました。
拙駄文に最後までお付き合い頂きありがとうございました。

(以上 本稿了)